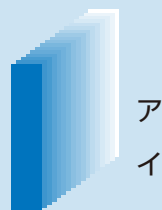




Newspaper in Education



教育に新聞を

実践報告書

2024年度



は じ め に ～くらべる～

静岡県NIE推進協議会
会長 安倍 徹

2024年度の出来事やNIEの活動を私なりに振り返るとき、「くらべる」という言葉が三つの視点を携えて浮かんできます。

一つ目は、同じ話題を新聞各紙がどのように扱っているかを「くらべる」という視点で、このことは多くのNIE活動で実践されています。

25年の1月21日の朝刊各紙はトランプ大統領の就任を報じています。「パリ協定離脱」「WHO脱退」については、その重大性がどの新聞の見出しの大きさからも共通して伝わってきました。一方で、「政治私物化」「トランプ王朝」という見出しで解説を一面で掲載している新聞からは、その新聞社の独自の主張が伝わってきました。

また、「お茶」という共通のテーマでも県によって捉え方が異なっていることを、24年度の静岡サレジオ小学校・中学校での実践発表会では、静岡県と鹿児島県の地元紙を使って学習していました。

二つ目は、それぞれの地域での話題をどのように扱っているかということから、他の地域を知り自分の地域を見つめ直すという視点での「くらべる」ということです。

25年1月発行のNIEだよりでも御紹介しましたが、既にほかの地域では扱われなくなってしまう、扱いが小さくなってしまった能登半島での地震や豪雨の被害状況を、地元紙はリアルタイムで伝え続けています。特産品ともいえる全国紙の地方版も含め地方の新聞を読むことの意義がここにあるように思います。

日本新聞協会のホームページにアクセスすると、新聞社が作成しているワークシートを見ることができます。そこでは、地方特有の文化や風土等を扱った記事に出会うことができます。

三つ目は、ある話題がこれまでどのように扱われてきたかということから、過去と現在を、ひいては未来も含めて「くらべる」ということです。

「終末時計」の残り時間が過去最短の89秒になったことが、最近新聞報道されていました。「終末時計」の考え方は1947年に残り時間7分から始まったようです。冷戦の終結と核軍縮を受けた1991年には17分まで延びましたが、現在は2分足らずとなってしまいました。これまでの70年余りの歴史を振り返り、どのような出来事が残り時間に反映しているのかを、新聞記事で遡(さかのぼ)って調べてみるのも興味深いことではないでしょうか。

以上、三つの「くらべる」について述べましたが、本報告書には、このような視点も含め、教育活動を展開していく上での様々なヒントが散りばめられており、各学校の実情に合わせて活用していただければ幸いです。

むすびに、本報告書の作成に当たり、御理解・御協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

目 次

- ◆社会への関心を高め、自分なりの考えをもち、表現する子を育てる新聞の活用
熱海市立泉小学校 岡 部 靖 子…………… 3

- ◆新聞に親しみ表現力を高めるNIE
静岡市立由比小学校 遠 藤 直 人…………… 8

- ◆新聞を選択肢の一つに！
袋井市立袋井南小学校 浦 中 拓 也……………12

- ◆「新聞」で育む、これからの社会に必要な資質や能力
浜松市立初生小学校 大木 健太郎……………16

- ◆NIEで自分の興味・関心を増やして社会に目を向ける
静岡サレジオ小学校・中学校 田 邊 朱 里……………21

- ◆社会変化の中で求められるNIE活動
浜松開誠館中学校・高等学校 大 庭 康 介……………26

- ◆社会に目を向け、視野を広げるNIE
～「探究」での活用に向けて～
静岡県立磐田北高等学校 高 井 恵 実……………32

- ◆委員会活動を通したNIE活動
静岡県立浜名高等学校 岩 本 直 子……………37

社会への関心を高め、自分なりの考えをもち、表現する子を育てる新聞の活用

熱海市立泉小学校 岡部 靖子

1. はじめに

本校は、熱海市の北側に位置し、神奈川県境に近い全校児童生徒数 44 人の小規模小中併設校である。

学校行事や縦割り活動を小中合同で行っており、交流が盛んである。中学生が小学生にやさしく声をかける場面も見られ、落ち着いた雰囲気中学校生活を送っている。

しかし、「多様な考えが出にくい」「人間関係が固定化される」という実態が挙げられ、自信や向上心が高まらず、主体性が低いという課題がある。また、学習面では、思考力、表現力が弱いことも見えてきた。

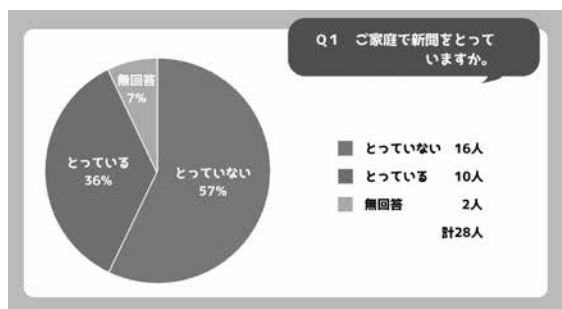
NIE教育実践にあたり、教職員へ①どのような力をつけたいか、②新聞を使ってどんなことができそうかの2点についてアンケートを実施した。その結果、①に共通するキーワードとして、表現、想像、自分なり、読む力、社会への関心が挙げられ、②では、ワークシートの活用、興味をもった記事の紹介、写真を見てイメージを膨らめる、学習のまとめの新聞づくり、記事に対する意見文の作成、新聞の日を設定するといった意見が出た。

そこで、研究テーマを「新聞を活用して、社会への関心を高め、自分なりの考えをもち、表現する子」として実践することとした。

2. 家庭・児童の実態

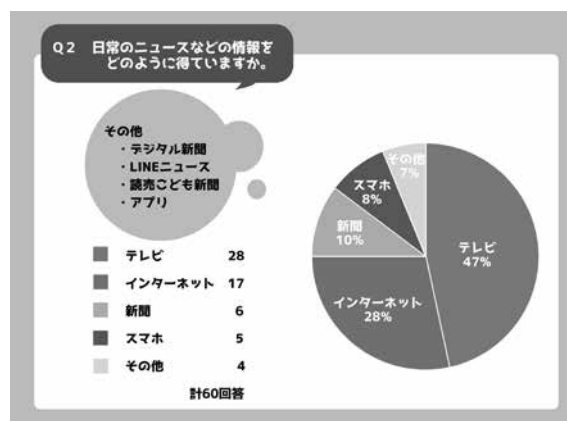
活動に取り組むにあたり、令和5年8月にアンケート調査を保護者に実施した（小1～小6 28人）。

Q 1：ご家庭で新聞をとっていますか。



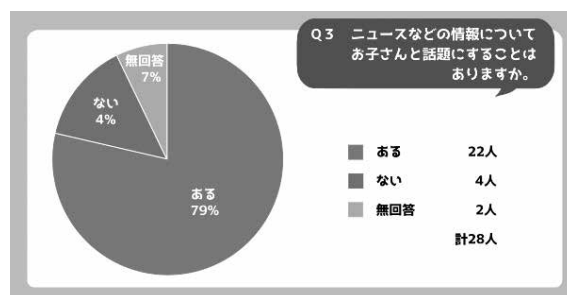
新聞をとっていない家庭は半数以上という状況で、新聞への関心が高くはないことがうかがえた。

Q 2：日常の情報をどのように得ていますか。



テレビやインターネットで情報を得る家庭が多く、デジタル機器の活用がほとんどであった。その中で、新聞を読んでいる家庭は1割程度であり、新聞をとっている家庭10件中でも6件という実態であった。

Q 3：ニュースなどの情報をお子さんと話題にすることはありますか。

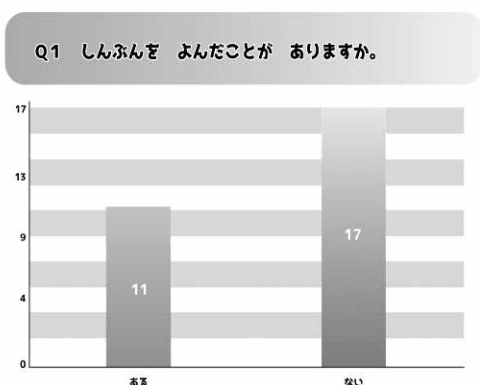


「ある」と答えた家庭が多く、社会で起きている出来事に関心が高いことが分かった。どのような話題が多いのかについて尋ねると、一番多かったのはスポーツ、次いで子ども関連の事故、天気や災害といったリアルタイムの情報についての話題が多かった。

しかし、「暗い、怖いといったマイナスのニュースが多いのでほとんどニュースを見ない」という家庭があったり、天気やテーマパークの話はしてもニュースは話題にしない、低学年なのでニュー

スを見ても反応がないといった回答があったりした。保護者も新聞を読むことへの関心が高くないのではないかとされる結果だった。

同様に児童28人にもアンケート調査を行った。



新聞を読んだことがあると答えた児童は11人、新聞を読んでおもしろいと思ったことがあると答えた児童は5人で、おもしろいと思った内容は、ポケモンのことわざ、折り紙作品の記事、テレビ番組、写真やクイズで、社会で起きていることには興味や関心が低く、生活に溶け込んでいない現状が浮き彫りとなった。また、「新聞を読んで役に立ったことがある」と答えた児童は7人で、天気分かった、テレビ番組の時間帯分かった、イベントの情報が分かったという身近な話題が多かったが、中にはテレビのニュースより詳しく分かったという児童がいた。

新聞を使ってどんなことをしてみたいかについては、日本で起きていることを知る、資料として使う、今起きていることを集める、スクラップする、国語で使ってみたい、発表するときに参考にしたい、工作で使いたいと、学年の発達段階によって、様々な考えが出され、教職員へのアンケート結果と重ねて活用方法を考えていくこととした。

3. 実践内容

(1) 授業での取り組み

アンケート結果を共有し、それをもとに、教職員それぞれが担当している学年や教科で実践することで、学年に偏りがなく、内容の幅も広がると考え、小中全員で授業実践をした。

①2年生 学級活動「ことばタイムに向けて」

ねらい：気になる記事を探して、友人に伝える活動を通して、コミュニケーションの力を育てるとともに、新聞に対する興味関心を高める。

活動の内容と児童の様子：

ことばタイムは、全学年が少人数のグループに分かれ、他学年と交流しながらテーマに沿った話をする活動で、年間8回実施している。他者に伝えるので、自分の興味や関心のあるものを選ぶ活動につながっていた。紙面を何度も読み返しながら、分からない言葉や言い回しなどについて、質問したり相談したりしながら進めていた。



成果と課題：

○新聞に親しむよい機会となった。記事は文字だけでなく、写真やイラストなどの表現を使って構成されていることに気づいた。

▲理解できる言葉が少なく、地域や背景がよく分からないので、難しいと感じる児童がいた。

②3年生 国語「写真を比べてみると」

ねらい：同じ出来事に関する記事の複数の写真を比べることで、考えを広げたり深めたりする。

活動の内容と児童の様子：

ハワイの山火事を伝える記事の3枚の写真を見て、違いを出し合い、それぞれの写真から分かることや想像した気持ちについて、ワークシートにまとめ話し合う。

火が写っている写真は、怖さを感じ、恐ろしさを伝えようとしていると感じ取っていた。また、火事によって燃え尽くされた街の様子の写真は、恐ろしさを伝えることに加え、呆然と眺めている人の気持ちを想像していた。



成果と課題：

○写真のみを使用したことで、記事の難しさとらわれずに取り組むことができた。写真が変わると、読み手が受ける印象や想像する気持ちも変化するという、写真の効果に気づくことができた。

▲授業後、進んで新聞に触れる姿は見られなかった。

③4年生 図画工作「つなぐんぐん」

ねらい：棒状にした新聞紙をどんどんつないで、つなぎ方や組み合わせ方を工夫して活動する。

活動の内容と児童の様子：

新聞紙から棒を作り、その棒をつなげて作った形の感じを基に、イメージを持ちながら、作ったものを鑑賞する活動を通して、造形的な良さや面白さなどを感じ取ったり、考えたりし、見方や感じ方を広げる。



成果と課題：

○安価で入手できる大きな紙は新聞紙が最良であり、カラー化された紙面も多く、棒状にした時の色や模様注目する気付きが見られ、楽しく活動することができた。

▲新聞を購読している家庭が少なく、教師側が用意しなければならない状況だったため、新聞紙が身近な材料とは言い難かった。

④4年生 理科「月の形」

ねらい：月の形は毎日変化することを、インターネットや図鑑以外に新聞に載っている暦を使って調べる。

活動の内容と児童の様子：

月の形が変化しているかをどうやって調べるかを考え、身近にある新聞に載っていないか調べてみた。暦が掲載されていない新聞社が多かったが、静岡新聞に掲載されていたので、2週間分の月の変化をワークシートに書き込んでいった。



成果と課題：

○身近な新聞に、欲しい情報が載っていることに気が付き、他の記事にも目がいくようになった。他の資料と比べることができ、確かな情報として使えるようになった。

⑤5年生 国語「新聞記事 NO. 1」

ねらい：記事と写真、図表を結び付けて新聞記事を読み、書き手の意図をとらえる。新聞の特徴をつかみ、自分の好きな記事を選ぶ。

活動の内容と児童の様子：

①新聞記事の構成を捉える。

②2つの記事を比べる。

③新聞の情報と自分の考えを結びつけながら考える。

④1つの新聞記事を読んで、自分の考えをまとめる。

※スクラップではなく、ロイロノートを使って写真を取り、ワークシートにまとめた。



成果と課題：

○単元として設定することで、どの子も新聞に触れることができた。国語の単元として、新聞の特徴を捉える中で、新聞記事の工夫に目を向けることができた。

▲単元後に継続して新聞に触れる姿は見られなかった。

⑥6年生 総合的な学習「熱海の現状を知る」

ねらい：熱海の現状を知り、今後どのような街にしていきたいかを考え提案する。

活動の内容と児童の様子：

熱海市や泉地区の現状（少子高齢化、観光業、害獣被害等）を知るために、身近な新聞記事から街の活性化を図るためにどういった取り組みがされているか知り、自分にできることを考える。集めた新聞記事を観光、地域の課題に分類して、それを基に、熱海や泉地区を今後どのような街にしていきたいか考え、提案した。



成果と課題：

○地域の記事が載っている新聞を資料としたことで、熱海や泉地区で課題となっていることや、改善するために取り組んでいる活動を知ることができた。また、街の活性化のために自分たちにできることを具体的に考えることができた。

※中学校での実践例

⑦中学3年生 国語「和歌の世界」等

ねらい：実用的な文章に書かれている情報を読み取る力を付ける。文章の内容について自分の考えを持ち、文章で表現する力を付ける。

活動の内容と児童の様子：

定期テストで、漢字や文法事項などを確かめる問題や内容の読み取り、読み取ったことに対する自分の意見を書く問題を新聞記事から引用し、出題した。

「和歌の世界」の単元で新聞社から出ているワークシートの関連記事を活用した。普段なじみのない古典の和歌が、実際の社会で活用されている場面に触れることができた。

成果と課題：

○新聞記事を取り掛かりとすることで、自分の考えを持ちやすく、文章で表現しやすかった。

▲教師側から示された記事だけでなく、自分から新聞を読む習慣を身に付けさせたい。

(2) 特別活動等での取り組み

①小学生全員 ことばタイム（朝の活動）

「気になる新聞記事を紹介するよ」

ねらい：気になる新聞記事をお互いに紹介し、異学年と交流したり、気付かなかった出来事を知ったりする。

活動の内容と児童の様子：

年間に8回設定されていることばタイムでは、縦割りの小グループになり、他学年と交流しながらテーマに沿った話をしたり聞いたりする活動を行っている。

その中で、気になる新聞記事を切り抜き、内容の紹介や感想を伝え合う時間を設定し、活動後には、広報委員会の提案で、全員の記事紹介を掲示することにした。



成果と課題：

○学年によって選ぶ記事が異なるため、知らない出来事に触れることができ、新鮮だった。自分で記事を選ぶので、複数の新聞に目を通し、様々なジャンルの記事の中から選択する楽しさを味わうことができた。

▲ワークシートに書いたもので、話すというより、発表する形になってしまった。この反省を生かし、令和6年度の活動では新聞だけを持ち寄って話すように改善した。

②小学生全員 ごちそうさまスピーチ

「新聞記事の紹介」

ねらい：テーマに沿ってスピーチの内容を考え、大勢の前で堂々とスピーチする。

活動の内容と児童の様子：

小学生全児童がランチルームで給食を食べるという環境を生かし、「ごちそうさま」のあいさつの前に、学年で決めたテーマについて考えた内容を全校の前でスピーチしている。2学期には、ことばタイムとは異なる「気になる新聞記事」をテーマにして、全校で取り組んだ。令和6年度は、教職員も気になる記事を紹介した。事後には掲示してもう一度その記事に触れられるようにした。



成果と課題：

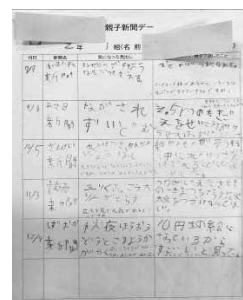
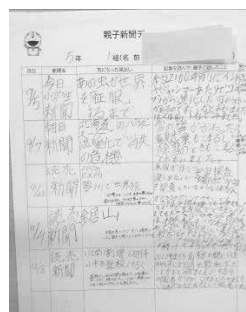
○人の前で話をすることに慣れ、どんな記事なのか興味をもって聴く姿が見られた。

③小学生全員 親子新聞デー

ねらい：月に一度新聞を持ち帰り、親子で一緒に新聞を読み、社会で起きている出来事について話し合う。

活動の内容と児童の様子：

毎月第一金曜日に新聞を持ち帰り、親子で一緒に新聞を読む。気になった記事について親子で話し合う。



成果と課題：

○低学年も新聞を持ち帰ることで、記事に関心を持つようになった。高学年には始めと比べ、選ぶ記事の内容が時事問題等へと広がりを見せた。親子で取り組んだことで、保護者も新聞を読む良さに気付くようになった。

▲「親子新聞デー」以外は、進んで新聞を持ち帰る姿は見られなかった。

④広報委員会の活動 「学年新聞を作ろう」

ねらい：各学級の紹介を新聞で作り、新聞を書く楽しさや他学年の新聞記事を読む楽しさを味わう。

活動の内容と児童の様子：

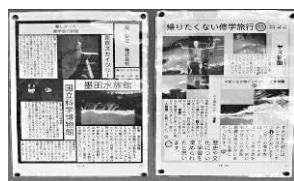
委員会活動の一環で年度末に各学級の紹介新聞を作りたいという提案が児童から挙がったため、全学級で学年紹介新聞を作る活動を行った。



成果と課題：

低学年は教師と一緒に書くことが中心となったが、高学年は記事の分担をして全員で書く経験ができた。この経験が、学習や行事のまとめとして作る新聞に活かせるようになった。また、学級通信を新聞形式にした学級もあった。

※学習や行事のまとめ新聞



▲6年生：修学旅行



▲4年生：社会科新聞



▲5年生：社会科見学新聞

4. 成果と課題

① 児童の変化

令和6年11月に全児童にアンケートを行った。その結果、新聞に触れるようになり、これまでどのように変わったかという質問に対して、「世界中の出来事が分かるようになった」「新聞からしか得られない情報を得ることができた」「興味ある記事を見つけたら、すぐに読むようになった」（6年生）、「世の中のことが分かり、気をつけることややりたいことが増えた」「科学の進歩が詳しく分かった」（5年生）、「ニュースでは詳しく分からないことが新聞を読んで分かった。耳だけでなく、目で見て読むことも大事だと思った」「ニュース以外のことも知ることができた」（4年生）、「漢字が読めるようになってきた」「世

界ではいろいろな出来事があることが分かった」

（3年生）、「新聞を読んで、言葉をたくさん知った」「文章を書く時に新聞のように詳しく書こうと思った」「自分の書いた文章をじっくり見直すようになった」（2年生）との回答があり、子ども自身も新聞に触れたことで、自分の変化を感じていることが分かる。

② 子どもたちに付いた力

教職員に取った、子どもたちにどのような力が付いたと思うかのアンケートでは、「海外のニュースにも目を向けるようになり、総合と関連して学習できた」「何をどのようにまとめるか、伝えたいことを分かりやすくするなど、表現を工夫するようになった」「新聞社のワークシートに宿題として取り組み、文章を読むことに抵抗がなくなった」「情報の収集や発信に新聞という方法があることを知ることができた」と、子どもたちの資質・能力の高まりを感じていた。

③ 家庭での変化

令和6年11月のアンケートでは、「新聞やニュースに興味を持ち、親子で話したり質問したりするようになった」「テレビと違って何回も読み返せるからいいと言っていた」「興味のある記事を自分で見つける習慣がついた」「親子で記事について話すことで、共有で楽しい」「新聞そのものの特性を知ることができた」「テレビから流れるニュースに対しても感想を言うようになった」など、子どもが新聞を読むようになったことで、新聞の特徴が分かたり、世の中の出来事に関心を持って反応したりする姿を好意的に捉え、子どもだけでなく保護者も新聞の見方が変化していることが分かった。

④ 課題

2年間の実践で、全教職員と全児童で取り組んだことは大きな成果だったが、こちらの投げかけや、授業内での活動が多く、子どもが自主的に新聞を読んだり取り入れたりするという姿が見られなかったことが課題として残った。今後も、新聞に触れることができる環境や場面づくりを継続し、子どもたちが新聞に目を向けられるように支援していきたい。また、文章を読み取る力を伸ばすため家庭学習に新聞記事を読むワークシートを使ってきたので、テストの点数での伸びに表れているのかを検証し、有効性を探していきたい。

新聞に親しみ表現力を高めるNIE

静岡市立由比小学校 遠藤 直人

1. はじめに

本校の児童の実態として「素直であり、課題に誠実に向かう」良さがある一方、「自発的・主体的に行動する力」「表現する力」に課題があることが挙げられている。NIEの実践を通して、児童の「表現力」を高めるために様々な活動を行った。

2. 実践1年目の取り組み

(1) 夏季研修の実施

まず、教員にNIEについて知りたいことを質問したアンケート調査を行った。その結果を参考にして夏季研修でNIEコーディネーターに、新聞の読み方や授業の中での具体的な実践の工夫について講義をしていただいた。そこで、基本的な知識の習得や今後の実践の見通しを共有した。

(2) 新聞コーナーの設置

図書室と職員室の前に「新聞コーナー」を設置し、新聞の交換を委員会の常時活動にすることで、児童がいつでも最新の新聞を手にとれる環境を作った。



<図書室>



<職員室前>

(3) 委員会での盛り上げと定着

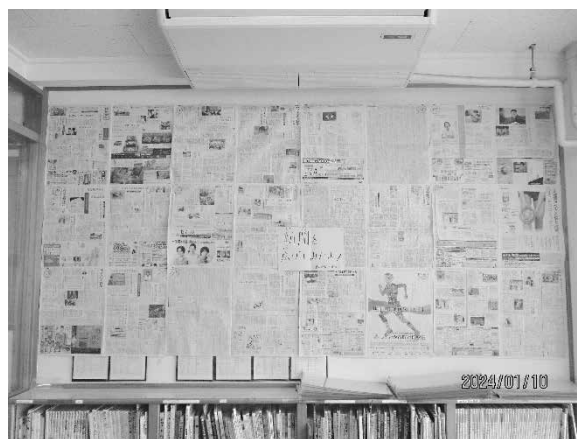
夏休み明けの児童集会で、新聞コーナーを新設したことを劇で伝え、全校に周知した。また、放送委員が昼の放送で、その日の新聞を読む活動が続けることで、新聞がいつも近くにあることを意識づけた。

(4) 司書教諭との連携

図書室の掲示板に、司書教諭のおすすめ記事を載せたり、朝刊を壁一面に広げて掲示してみたりして、児童が興味をもつ工夫をした。



<司書教諭おすすめ記事>



<朝刊1日分を壁に広げてみる>

(5) 「NIE TIME」の設定

無理なく、楽しく継続的な活動を行うために、金曜日の朝の時間を「NIE TIME」とし、新聞を活用した学習活動を行うよう計画した。どの学年も月に2回設定した。

3. 実践2年目の取り組み

新聞に、無理なく楽しく継続的に関わっていくために、国語や社会などの教科だけでなく、NIE TIME の活用、司書教諭とも連携して実践した。

実践内容は大きく（１）新聞に親しむ活動（２）新聞から情報を得る活動（３）得た情報を自分なりに解釈し表現する活動に分けられる。

（１）新聞に親しむ活動

① 4年「新聞しりとり」【NIE TIME】

見出しをしりとりでつなげる活動を行った。探すために自然にページをめくる中で、難しい漢字と出会い、児童同士の対話が生まれた。



② 3年「写真は何枚？」【NIE TIME】

1回分の新聞に、何枚の写真があるのか2人組で数えた。100枚以上あることに大きな驚きを感じていた。



③ 4年「都道府県を探そう」【NIE TIME】

【社会科 県の地図を広げて】

天気欄や、作物の産地の欄にたくさん隠されていることを発見した。名古屋→実は愛知県など、市と県を明確にすることにつながった。社会の授業に沿った内容で子どもたちは楽しんで活動した。



④ 司書教諭との連携



新聞記事コーナーでクイズを掲示し、子どもたちの回答をポストに投函、全問正解者の名前を、図書館の壁に貼り出す企画を実施した。回を重ねるごとに応募者が増えた。

特に、第3回のオリンピックにまつわるクイズの時には、放送で呼び掛けもあったことから多くの児童が応募していた。



⑤ 昼の放送での紹介

放送委員の常時活動で新聞を読む時間を設けた。すらすら新聞を読めるように読みがなをふったり、事前に読む練習をしたりして、放送に臨んだ。

放送の終わりに、「続きが気になる人は、放送室前に新聞があるので見てください」という旨を伝え、新聞コーナーに興味を持つように呼び掛けを続けている。終了後、実際に興味をもって、新聞を見に来る児童も多かった。

どこまで新聞を読めば、放送を聴く人が興味を持つのかを考え、切り方を工夫する姿も見られるようになってきた。

(2) 新聞から情報を得る活動

①3年「食べ物を探そう」【NIE TIME】

メンチカツ、カップめんなど探すキーワードを設定し、5分で探す活動。見つかった児童を挙手で確認し、「値段は?」「何味?」など教師が発問をして、内容を読みとった。



②5年 地引き網の記事の読み取り

【総合的な学習の時間】

1週間前に見学した由比漁港と絡めて、記事の読み取りをした。総合的な学習の時間と関連する内容だったこともあり、子どもたちは意欲的にワークシートに取り組んだ。



③5年「新聞の特徴と楽しい読み方」

NIEコーディネーターを招き、「新聞の特徴を知ろう・新聞の楽しい読み方と活用法(コツ)」をテーマに講義を受けた。

新聞とインターネットを比べると、新聞には大きな特徴があり、見出しの大きさや配置で重要なニュースを読者に示していることを教えていただいた。新聞記事は、見出しから始まる逆三角形の文章になっていることを学び、実際に見出しを考える活動を行った。

児童が付けた見出しは、とても独創的で読者の目を引くものも多かった。

また、時間がない時には、見出しやリード文だけを見れば、その日の大事なニュースが分かることを学んだ。



(3) 得た情報を自分なりに解釈し表現する活動

①5年国語「新聞を読もう」

3種類の新聞から、静岡新聞の特徴を考え、選択する活動をした。

同じ見出しである3種類の「奄美のマンガース絶滅宣言」を読み比べた。見出しは同じでも、リード文や使われている写真が違うこと、グラフや表を使用している・いないなど、それぞれの新聞の書き方に違いがあることに気付いた。

静岡新聞の特徴として、「静岡出身の阿部さん」が写真入りで載っていることに気付く児童もいた。読み手が知りたい情報を記事にしていることが静岡新聞である理由と書いている児童もいた。



②6年国語「気になるニュースを集めよう」

朝の会のスピーチで「気になるニュース」を当番が発表した。食パンに小動物の一部が混入。細菌が入ることや、10万個も回収して処分するのはもったいない、今後こういうことがないようにしてほしい、と自分の思ったことを前日に原稿にして、1分程度で話をした。1人2回行うことで、児童は社会の出来事に関心が高まっていた。

帰りの会のスピーチでは、当番が気になる新聞の記事を読み上げ、自分の考えや感想を述べていた。難しい内容でも、自分はこう考えると堂々と発表していた。日常からの積み重ねで、内容も充実しており、話し方も聞き手を見て、納得してもらえるように話していた。

原稿は、廊下に掲示していた。児童が興味を持つニュースは多岐にわたっていた。



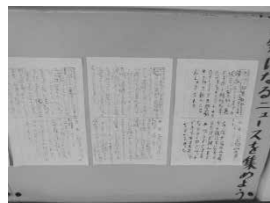
＜朝の会のスピーチ＞



＜廊下に掲示された原稿①＞



＜帰りの会のスピーチ＞



＜廊下に掲示された原稿②＞

4. 成果と課題

NIE実践を終え、児童や教員にアンケートを行った結果、以下のような声を得られた。

【児童の声】

- ・自分のペースで読める。
- ・情報収集できた。漢字の読み方が分かった。
- ・読む力が付いた。
- ・難しい言葉を調べるきっかけとなった。
- ・読むことが好きになった。
- ・読むスピードが上がった。
- ・毎日の事件や話題になっていることが書いてあって良い。
- ・新聞は、嘘の情報が入っていないから安心できる。
- ・世の中の出来事を知ることができ、家族の中で話することができた。
- ・本を読むのが好きになった。
- ・テレビのニュースを見逃したとき新聞を見たらニュースでやっていて良かった。

【職員の声】

- ・新聞の見出しを読み取る力が付いた。新聞を取らない家庭が多くなっている現状にあって、子どもが自然に新聞に触れる機会が生まれ、貴重

な期間となった。

- ・1年生なので、担任が教室で時事ネタを話しながら、子どもたちの興味・関心を引き付けるようにした。ただ、新聞から情報を拾うことは1年生には難しく、テレビのニュース・ワイドショー等に関心を寄せていく程度であった。
- ・ニュースに対する興味・関心が持てるようになった。ニュースについての話をしなければならぬので家族に相談する子もいて、良い意味で家庭を巻き込むことができた。意見・感想を上手に表現できるようになった。
- ・新聞に慣れ親しみ、時事問題を知るといった意識は上がったように思う。また、当番のスピーチでクラスの前で話す活動を通して、自分の意見を相手に分かりやすく伝える、プレゼンテーションするといった力も付いたように感じた。
- ・問いの答えを文章から探し出す力。ワークシートがあることがありがたかった。
- ・新聞記事を昼の放送で読んでくれるので、興味を持つきっかけになっていると思う。

①成果

児童の声や、教職員の声を聞くと、家庭で新聞を取っている割合は、4割を切っている状況で、学校に常に新聞があり手に取れる環境は、児童にとって大変価値があると感じた。

アンケートの結果によると特に児童が、自分に身に付いた力として「読む力」を上げる割合が非常に高かった(81%)。児童にとって難しい新聞に、様々な形で接する機会を与え続けることで、興味を失わずに「読む力が付いた」と児童が実感できたことが最大の成果と言える。

②課題

表現力(書く・話す)が高まったか、実感できた児童は「書く」(28.1%)、「話す」(17.4%)にとどまった。また、新聞が常に置いてある状況にあっても、読む頻度は週1回以下である児童が、9割を超えていた。実際に自ら新聞を手取るように指導していくことの難しさを感じた。

新聞を選択肢の一つに！

袋井市立袋井南小学校 浦中 拓也

1. 学校全体での取り組み

(1) いのちの大切さ

学校評価アンケート「命の大切さを分かっている」の項目100%へ向けた取り組みの一環で、新聞記事を使用。こども新聞に掲載されていた「地震から身を守るため」のイラスト付きの記事を引用し、リスクマネジメントのような活動を行った。



(2) NIE コーナーの設置

こども新聞を中心に昇降口付近に新聞を設置。興味をもって読む児童が増えている。また、職員室入口に自由に取っていけるように新聞を置いた。教師が手に取る（教材で使えそうか検討している）様子が増えた。新聞を購読している家庭が少ない現状を考え、積極的に新聞を子供たちに見せた学級もある。



(3) 校内の掲示物としての活用

英字新聞をALTが積極的に掲示した。トランプ大統領や大谷翔平選手の記事など、子供たちがよく知っている人物の記事を選んでいた。

もりもりランチ（給食）委員会は、活動のひとつとして、栄養に関する新聞記事を探し、校内に掲示した。また、学級内の掲示物作りの際にも、新聞のレイアウトを参考に、新聞風の掲示を完成させたクラスもあった。新聞係として、本当の新聞のレイアウトを真似して楽しく学級新聞を作成している児童も多い。図書担当の教員は、学校図書館に関する記事を図書室へ掲示した。



(4) 南っ子ニュース（放送）委員会の活動

昨年度から子供の主体性の育成を目指す本校の取り組みの一つとして、委員会の改革を行っている。放送委員会では、これまで昼の放送は決まった文言のアナウンスを淡々と話すのみだった。今年度のスタートから新聞記事を要約して、身近なニュースの紹介をするようになった。

(5) 職員研修

昨年度、担当者含め教員自身が NIE 教育について不透明な状況だったこともあり、4 月に静岡新聞 NIE コーディネーターの矢澤様を講師に招き、教師向けの NIE 講座「やさしい NIE を実践するために」を行っていただいた。主に読み手が読みたくなる見出しの工夫等が印象に残り、職員の作成する学年便りのレイアウトが以前と比べ読みやすくなった。



2. 授業での実践事例

(1) 4 年算数「およその数」

「こどもウイークリー」の記事中から、「約」を用いた概数を見つけ、鉛筆で囲む。「パンダの飼育員の仕事の紹介」の記事から「来園者数」「パンダの餌の量」「撮影した写真の枚数」等の概数を見付ける活動を行った。

(2) 2 年生図画工作「くしゃくしゃぎゅっ」

新聞をくしゃくしゃにしてどんな形ができるかを学習した。子供たちは家や秘密基地といった大きな造形物やマント等の衣装を作った。想像力を膨らませて造形活動を楽しむことができた。

(3) 4 年生理科「天気と気温」

天気によって気温に変化があることを教科書で学習した後、実際の天気と気温のデータを新聞で確認し、学んだことを再確認するのに使用した。

(4) 5 年社会「これからの食料生産とわたしたち」「これからの工業生産とわたしたち」

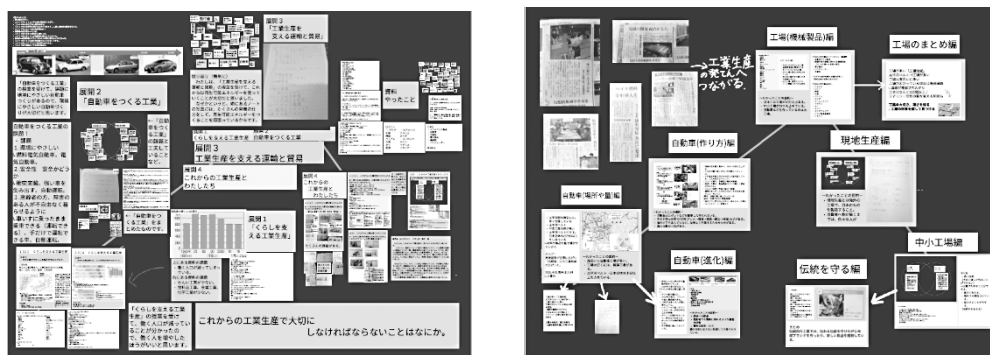
社会科では、昨年度より、教科書、資料集に加え、新たな資料のひとつとして新聞を積極的に活用した。最新のデータが見られることや自分の住んでいる地域の記事等があり、社会科の学習に取り組

む上で、重要となる「自分事として考える」学習活動に、とても効果的に活用できた。現在の日本の食料自給率が低いことに対して、たくさんの新聞を見ていく中で、食料自給率向上に関係がある記事を選び、友達に紹介することができた。

今年度は「自分が選んだ記事の発表会になってしまった」という1回目の活動の反省を踏まえ、これからの工業生産に関する自分の意見の根拠を、新聞記事を基に探す学習を行った。「新聞から探そう」というスタートだったが、やはり発表会に近い意見交換のみに終わってしまい、深い対話学習にはつながらなかったため、「教科書、資料集、ネットニュース、新聞」と選択肢を広げた。子供たちは意見の交流、対話に集中するようになり、深い学びへつなげることができた。

<指導案>

過程	学習活動 (○発問 ・予想される児童の発言)	・指導上の留意点 ☆評価 ◎校内研修との関わり
導入	1 本時の課題と学習方法の確認をする。 ○今日は「日本の工業生産の発展を考える会」です。グループ討論→全体交流→意見文記入（振り返り）の流れで行います。 ○日本の工業生産を発展させるために、大切なことは何だろう。	・時間短縮のため、各自の意見は印刷し、各グループの模造紙に貼っておく。 ・学習の流れをスクリーンに提示し見通しをもちやすくする。「最後の振り返りにつなげるための議論である」ことを特に確認する。
展開	2 グループ討論をする。日本の工業生産に求められる6つの項目を「最重要政策」「重要政策」「そこまで重視しない」の3つのグループに分ける。 ○各項目をどれだけ重視していくか、根拠とともに自分の意見を伝え、グループとしての意見をまとめましょう。 ・価格が安かったり、便利だったり、消費者の願いにこたえる工業製品づくりが大切だと思います。 ・少子高齢化が進む日本において、人のくらしに役立つ製品の開発が大事だと思います。 ・「自動車をつくる工業」で学習したが、環境に配慮した製品づくり、持続可能な社会を目指した工業生産が大切だと思います。 ・現地生産や輸出と輸入のつり合いのとれた貿易など、世界の国々との結びつきを大切にしていけないと日本の工業は成り立たないと思います。 ・日本の伝統技術を生かした製品は、国内外で評価が高いため、昔から伝わる技術を生かした製品づくりは大切だと思います。 3 全体発表をする。 ○自分たちのグループでどんな意見（結論）が出たのか全体に1分程度で伝えよう。 4 全体交流（ポスターセッション）を行う。 ○先ほどの代表者の発表を基に、自分が興味のあるグループを中心に各班の模造紙を見に行き、考えを深めましょう。	・日本の工業生産に求められる視点を以下の6つとする。（教科書 P49） 1 消費者の願いにこたえる製品づくり 2 人に役立つ製品づくり 3 環境に配慮した製品づくり 4 製品づくりのための資源の確保 5 外国に負けない工業生産の技術 6 伝統を大切にした製品づくり ◎学年研修「対話の質を高める」ために、前時までに新聞記事や資料集等に掲載されている資料を基に、自分の意見をまとめておくことで、自信をもって話し合いに参加できるようにする。また、少人数のグループ編成にし、個人の発言の機会を多く設定する。 ・意見の内容や表現力等の観点から、よりよい議論となるグループ編成を行う。 ・前時までにタブレット内に新聞記事等の資料を各自取り込んでおいたり、ロイロノート上にこれまでの工業の学習の経過を記録したりすることで、グループ討論の中で自然に（根拠を示す場面等で）提示できるようにする。 ・友達の意見を受けて発言する際、「物事をつなげて考える」ことを意識させる。（討論前に伝える、確認する）
終末	5 意見文を書く。 ○単元の全ての学習と本時の討論を振り返り、自分が考える「日本の工業の発展について、大切なことや必要なこと、求められること」を意見文として書きましょう。 ○日本の工業生産には、資源の確保や働き手の減少、環境への影響などの問題がある。しかし、高い技術力や工場同士の協力など、日本の工業の良さを生かし、消費者の立場に立ってより良い製品を作っていくことが必要である。	・自分の思いを文章で表現することに苦手意識をもつ児童も数名いるため、文章の出だしと終わりを提示する等の意見文の書式も用意しておく。



(5) その他

あらゆる学年、教科で新聞を作成する際には、実際の新聞を提示して手本とした。見出しや記事の配置の仕方等、構成を確認できた。また、低学年では、片仮名や平仮名を見つける活動に新聞を用いた。

3. 実践前後の変化、実践の感想、今後の課題

(1) 児童・生徒はどのように変わったか

新聞記事に興味を持つ子が増えた。日常の教師との会話の中にニュースの話題が上がる時もある。ニュースをアナウンスするようになった放送委員は、原稿を自ら作る経験を積んだことで、全校に放送する楽しさに気付いたようである。現在は、1年生も含め全学年が楽しめるクイズの原稿を考えたり、災害のニュースがあると、地震から身を守るニュースをクイズ形式で紹介したりするなど、主体的に委員会活動に取り組む姿が見られる。

社会の振り返りには、新聞の便利さを書く子もいて、多様な情報を持つ新聞の特徴の良さに気付いた。新聞の見方もばらばらにならずに上手に読めるようになり、最初は課題に沿った記事を見付けるのに時間が掛かった子供たちも、どの面に自分が求めている記事があるのか、見当を付けて読むことで、短時間で探すことができるようになった。

(2) 実践者の感想

授業の中でも新聞を教材として使うことを前提にしていると、スムーズな対話が生まれないという難しさがあった。また、多忙を極める職員に対して、積極的に新聞活用を推進することに対して、少し遠慮がちになってしまったところもあった。

そんな中、NIE全国大会等で「大人に負担がある場合は、子供にとっても負担である」という話題が印象に残った。「必ず」ではなく、「気軽に」新聞を使うことを意識するようになった。「新聞が主役」ではないが、社会科であれば「教科書、資料集、地図帳、新聞」、放送委員会のアナウンスの材料集めであれば「インターネット、本、新聞」というように、子供たちの学びや学校生活の中の選択肢の一つに新聞が位置づけられたのは、本校にとってとても大きな出来事だったと思う。

実践指定をいただいたことで、大量の新聞が学校にある環境となり、上述の理科の学習のような活動では、一人一部新聞が手元にある、という状況で学習を進めることができた。他校の実践を知る中で、まだまだやってみたいことがあり、新聞を教育に取り入れる魅力を感じた2年間であった。

(3) 反省点や課題となる事項

やはり新聞の活用を継続して行うことで、教育の効果は上がると思われる。例えば本校でも朝読書を実施しているが、その中で新聞を読むことも気軽な新聞活用になるのではと思った。また、今回の実践報告を作成するにあたり、職員にどのような実践を行ったか、アンケートを実施したが、予想以上に皆が新聞を活用していることを知ることができた。担当が気付かないところで新聞を掲示に使っていたり、授業で使用したりと、多くの先生方の協力で、2年間のNIEが成り立ったと感じる。だからこそ、担当として「こんな実践もあります」というアナウンスや職員同士の情報共有は、もっと必要であったと思う。

「新聞」で育む、これからの社会に必要な資質や能力

浜松市立初生小学校 大木 健太郎

1. 本校の特色と新聞に関する家庭環境

本校は、浜松市の三方原台地の東側に位置する、全校児童約 770 人の学校である。近年、台地の住宅地としての需要が高まっている背景もあり、少子高齢化と言われる現在でも、児童数は横ばいを維持している。以前から初生町に住んでいる家庭もあれば、住宅地として新たに開かれた場所に移ってきた家庭もある。

令和 6 年度は、NIE実践の 2 年目ということもあり、昨年度よりも効果的な実践にしていけるために、4 月に 5・6 年生の保護者を対象として、アンケート調査を実施した。(回答数 222 件)

① 現在、御家庭で新聞を購読していますか？

している 65 (29%)	していない 157 (71%)
---------------	-----------------

② ①で「している」と答えた方。購読している理由を教えてください。

※自由記述の主な回答を集約・複数回答有

・情報収集のため (21) ・子どもの学習のため (8) ・同居の祖父母が読むため (7)

② ①で「していない」と答えた方。購読していない理由を教えてください。

※自由記述の主な回答を集約・複数回答有

・インターネットやテレビで情報収集するため (46) ・読んでいる時間がない (22)
・読まない (17) ・金銭的な負担 (12)

③ お子さんは世の中の動きやニュースに関心がありますか？

ある	ややある	あまりない	ない
29 (13%)	118 (53%)	66 (30%)	9 (4%)

④ お子さんは、文章や資料から、正しく事実を読み取ることができていると思いますか？

できている	ややできている	あまりできていない	できていない
22 (10%)	100 (45%)	92 (41%)	8 (4%)

本校の児童を取り巻く家庭環境の特徴として、新聞は普段の生活と距離のあるものだということが分かった。家庭が新聞から離れている以上、必然的に児童も日頃から新聞に触れる機会が限られていると考えられる。世の中の動きやニュースへの関心については、ある方だと捉えている保護者の方が多かったが、ないと捉える保護者もまた一定数いた。また、事実の読み取りができていないとの回答の総数が半数近くに上り、保護者も課題に感じていることが分かった。

2. 実践の方向性について

(1) 教材としての「新聞」のとらえ

新聞を活用した実践を進めていくにあたり、教材としての新聞の特性を次のように整理した。

- ・社会や身の回りで、今、起きている出来事が分かる。
- ・記事は簡潔な言葉や文章で、分かりやすくまとめられている。

(2) 実践目標

(1) で示した教材としての「新聞」と児童や家庭の実態を踏まえ、以下の実践目標を設定した。

児童が新聞記事を読むことを通して、①世の中の動きやニュースに関心をもち、②事実を正確に読み取る力を伸ばすことで、これからの社会に必要な資質や能力を育む。

「第3次浜松市教育総合計画～はままつ人づくり未来プラン～」にも「これからの社会を生きぬくための資質や能力」という言葉が記されている。特に「知識基盤社会と本市における『創造』の必要性」の項目には、学校で知る知識だけではなく、複数の知識を活用できるようにすることの重要性が述べられている。学校で得た知識と新聞から得られる情報を結び付けていくことで、この資質や能力を効果的に育むことができるだろうと考え、この実践目標を設定した。なお、効果的な実践にするためにも、ある程度社会の知識が身に付いていることが前提だと考えたため、主な実践は5・6年生を中心に行った。

3. 実践「新聞プリント」

実践目標の達成に向け、特に効果的だった「新聞プリント」の取り組みについて後述する。

(1) ねらい

- ・文章を読むために必要な語彙力を身に付ける。
- ・新聞記事から、事実を読み取る技能を育む。
- ・学習内容や児童の興味関心に則した記事を読むことで、社会への関心を育む。

(2) 様式

新聞プリント	年 月 日 ()	新聞					
担当が、選んだ新聞記事を貼るスペース	月 日 名前 ()						
	1. 記事の中で、分からなかった言葉の意味を調べましょう。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> </table>						
意味調べ →語彙力を高める。							
2. 記事から分かること(事実)を書きましょう。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> </table>							
事実を箇条書きする →記事から事実のみを読み取る。							
3. 記事の内容に対して、自分が考えたことや感じたことを書きましょう。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td></tr> </table>							
記事に対する感想を書く →世の中や社会の動きへの関心を高める。							

(3) 運用

- ・毎週末、土日の家庭学習として児童に配布する。
- ・記事は、主にその週の中で社会的に注目度の高そうなもの、もしくは児童の興味関心に則しているものを担当が選択し、様式の左側に貼り付け、印刷する。
- ・休日明けに回収する際に、新聞記事の内容について考えたことをグループ内で伝え合う。

(4) 選択した記事の例

見出し	日にち	新聞社
空襲下 地下学校開校へ	4月21日	静岡新聞
'24 浜松まつり 準備万端 開幕心待ち	4月30日	静岡新聞
男女平等日本 118 位	6月13日	中日新聞
子ども減り続けた 日本の未来は？	6月15日	朝日小学生新聞
今日から発行 新しいお札！	7月3日	朝日小学生新聞
8月の米不足 なんだったの？	9月11日	朝日小学生新聞
首相は国のかじを「船長」	9月10日	朝日小学生新聞
袴田さん 再審無罪	9月27日	産経新聞
来月5日アメリカ大統領選 次はどちら？	10月10日	朝日小学生新聞
教科書「紙」に回帰	10月22日	読売新聞
衆院選 自民と公明、過半数下回る	10月29日	朝日小学生新聞
カメムシ被害 富士柿ピンチ	11月9日	中日新聞
豪 16 歳未満 SNS 禁止	11月29日	読売新聞
「光」と「影」両面注目 今年の漢字5回目	12月13日	中日新聞

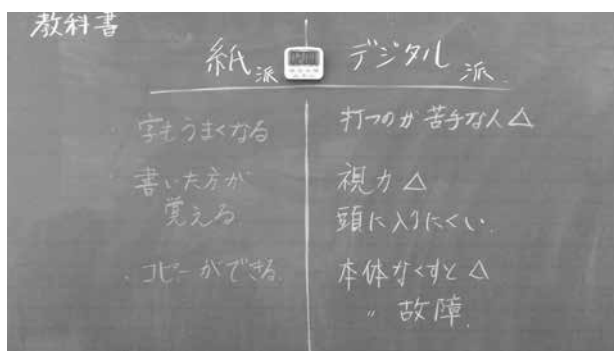
なお、1月中旬に新聞プリントの取り組みを振り返るアンケートを児童に実施した際、印象に残っている記事を1～3つほど入力する項目を作った。多かった回答は、「カメムシ被害」が36件、「豪 16 歳未満 SNS 禁止」が72件、「『光』と『影』両面注目 今年の漢字5回目」が61件となり、アンケート実施日に近い記事が多く挙げられた。しかし、少しさかのぼって「8月の米不足 なんだったの？」が21件、「来月5日アメリカ大統領選 次はどちら？」が23件と、時間が経っていても回答に挙がってきた記事もあった。これらは、各種メディアによって頻繁に取り上げられていたため、記事を読んだ記憶が補強されたからだと考えられる。また、回答数は少なかったが、4月に取り組んだ、「空襲下 地下学校開校へ」が2件、「'24 浜松まつり 準備万端 開幕心待ち」が5件と、期間がかなり空いていながらも、児童によっては、印象に残り続けているものもあった。

(5) 交流について

新聞記事の内容について考えたことをグループ内で伝え合う際に、グループ内で出た意見を集約して、更に学級全体での共有も行った。また、新聞記事に則して自分の考えを選び、学級内で討論会を行い、考えを深める活動も行った。



グループ内で考えたことを発表する様子



記事の内容を基にした討論会の板書

(6) 長期休暇の新聞プリント「いっしょに読もう 新聞コンクール」

夏休み・冬休みには、「いっしょに読もう、新聞コンクール」を課題として全員に取り組みさせた。新聞を取っていない家庭が多いという実態に配慮して、新聞持ち帰りコーナーを設置し、夏休み前や夏の個別面談の際に、自由に持ち帰ることができるようにした。



新聞持ち帰りコーナー

4. アンケート結果

(1) 児童概要 (5・6年生対象 回答数 232件)

① 新聞プリントの取り組みを通して、知っている言葉は増えましたか？				
とても増えた	増えた	やや増えた	あまり増えていない	増えていない
20 (9%)	85 (37%)	77 (33%)	34 (15%)	16 (7%)

② 新聞プリントの取り組みを通して、文章から、「事実」を見つける力がついたと思いますか？				
とてもついた	ついた	ややついた	あまりついていない	ついていない
22 (10%)	81 (35%)	96 (41%)	22 (10%)	11 (5%)

③ 新聞プリントの取り組みを通して、社会や世の中の動きへの、興味や関心が高まりましたか？				
とても高まった	高まった	やや高まった	あまり高まっていない	高まっていない
23 (10%)	64 (28%)	93 (40%)	32 (14%)	20 (9%)

(2) 保護者概要 (5・6年生保護者対象 回答数 191件)

① 新聞プリントを通して、お子さんは、文章や資料から正しく事実を読み取る力をのばすことができましたか？			
できた	ややできた	あまりできていない	できていない
22 (12%)	121 (63%)	45 (24%)	3 (2%)

② 新聞プリントを通して、お子さんの、世の中の動きやニュースへの関心は高まりましたか？			
高まった	やや高まった	あまり高まっていない	高まっていない
26 (14%)	107 (56%)	48 (25%)	10 (5%)

③ 4月～1月の間で、お子さんの、「新聞」への関心は高まりましたか？			
高まった	やや高まった	あまり高まっていない	高まっていない
15 (8%)	49 (26%)	92 (48%)	35 (18%)

5. 成果と課題

(1) 成果

◎ 「これからの社会に必要な資質や能力」を総合的に高めることができた。

児童を対象としたアンケートの回答のうち、新聞プリントのねらいとした、「文章を読むために必要な語彙力を身につける」「新聞記事から、事実を読み取る技能を育む」「学習内容や児童の興味関心に則した記事を読むことで、社会への関心を育む」に関するもので、「力がついた」と分類されるものが、全ての項目で75%以上となった。保護者から見た児童の様子からも、これらの力が付いていると実感していることから、本実践のねらいでもある「これからの社会に必要な資質や能力」の育成について、十分に効果を得ることができたと考える。その要因として、同じ形式のプリ

ントを継続的に使い続けることで、児童自身が新聞プリントを通して身に付けられる力を意識して取り組む続けることができたからだと考えられる。

◎ 新聞に触れる機会を増やすことができた。

保護者を対象としたアンケートの自由回答欄には、「新聞を取っていないので、新聞を読む機会がほぼ無く、宿題としてこのような取り組みがあるのはとても良いと思います」「改めて新聞に親子で関心を持ちました」「新聞離れの現代に、新聞を読むという時間はとても良い時間だと思います」といった、新聞記事を読むことに対して前向きな回答を複数得ることができた。長期休暇中の課題についても、「新聞をきっかけに、世の中の動きを家族で話す機会が増えた」「分からないことを質問されて、親子の会話のきっかけとなった」等の回答があった。

(2) 課題

▲ 高まった力を実感する機会が少ない。

多くの児童が「力がついた」と答えたものの、「やや高まった」「ややついた」「やや高まった」の項目に回答が集中した。教師の立場から児童の取り組みの様子を見てみると、力は着実についていると感じるので、これは児童が、本実践のねらいとしている資質や能力の自身の高まりを捉えきれなかったためだと考えられる。この資質や能力の高まりが児童に表れた瞬間を見逃さず、教師が積極的に価値付けていくことが、高まりを実感させる手立てとなるだろう。

▲ 新聞プリントの負担感が強かった。

アンケートでは、普段新聞プリントに掛かる時間が45分以内と回答した児童の合計が78%だった。決して多くの時間を割いている訳ではなかったが、児童の自由回答欄には「面倒くさい」「なくして欲しい」といった回答が複数見られた。しかし「勉強になる」「将来の役に立つ」と捉えている児童も同程度いることから、負担感を減らす手立てが必要だと感じた。具体策としては、児童が関心を向けやすい記事の割合を増やすことだ。本年度選んだ記事は、学校の授業と関連させ、政治や経済、社会構造などを取り上げたものを重視したため、高学年といえども、読解が難しいのが多かった。ねらいを重視するあまり、学習者の意欲を削いで本末転倒になるので、児童が生活とのつながりを感じやすい記事の割合を増やすことが改善策として考えられる。また、記事は全て担当が選んでいたが、複数人の教師が順番に記事を選ぶことで、記事選びの視点が広がり、マンネリ化を防ぐことになるだろう。

▲ 新聞への関心は上がらなかった。

本実践を行うことで、児童の新聞への関心を高めることも副次的な効果として期待したが、保護者から見た児童の関心は、「高まっていない」との回答が66%にもなった。新聞記事を課題として読んでいるだけでは、関心を高めることが難しかった。課題の他にも児童の興味を引く手立てを考える必要があった。ただし、そもそも新聞を取っている家庭が3割を切っている本校の家庭環境を鑑みると、児童だけでなく家庭全体を巻き込むような手立てや支援でなければ効果が薄いと考えられる。

6. おわりに

現代社会では、多くの情報が児童らを取り巻いている。これからの社会を生きていくためには、情報を適切に読み取り、正しく事実を見出すための力、そして、読み取ったことを自分事として捉え、積極的に社会と関わっていく姿勢が必要不可欠だと考える。本実践を通じた経験が、児童らにとってこれからの社会を生き抜くための一助となることを願う。

NIEで自分の興味・関心を増やして社会に目を向ける。

静岡サレジオ小学校・中学校 田邊 朱里

1. はじめに

(1) 本校の紹介

本校は、静岡市清水区に位置する、カトリック教育を基盤とした幼・小・中・高一貫の学校である。学園が一体となった一貫システムの中で、受験勉強にとらわれない、独自の教育プログラムを展開している。1-4年生が所属する「プライマリー」、5-8年生が所属する「ミドル」、そして9-12年生が所属する「カレッジ」の三つのステージに分かれた4-4-4制の教育活動を採用している。本学ではそれぞれのステージで国際バカロレア (IB) を採用しており、「プライマリー・イヤー・プログラム (PYP)」「ミドル・イヤー・プログラム (MYP)」そしてカレッジステージの一つのコースであるソフィアコースで「ディプロマ・プログラム (DP)」を採用している。今回NIE実践を行ったのは、5年生から8年生 (中学2年) が所属する、ミドルステージである。ミドルステージは、5年生 66人、6年生 79人、7年生 87人、8年生 81人から構成されている。

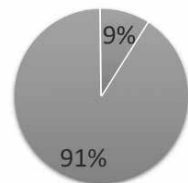
(2) 実態調査

2023年にNIE実践指定校に認定されてから、生徒の実態把握が必要だと思い、アンケートを実施した。2023年に7年生81人に調査したアンケートでは、「家庭で新聞を取っていますか」という質問に対して約7割が新聞を取っている一方で、「普段 (週2回以上) から新聞を読む習慣がありますか」という質問に対しては「読む」と答えた生徒が9%という結果になった。

また、「新聞を読むことのハードルは高いですか」という質問に対して「高い」「どちらかと言えば高い」と答えた生徒が合わせて65%、「社会の情報を得るときに何を利用しますか」という質問に対しては「新聞で情報を得る」と答えた生徒はわずか4%であった。「新聞についてどう思いますか」という問いに対しては、「新聞は社会の情報を知ることができる」「新聞を読むことで国語力が付きそうだ」などと肯定的な意見がある一方で、「難しい」「字が小さい」「面白くない」「読

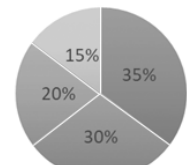
み方がよくわからない」という新聞を読んだことがないからこそ新聞の読み方を知らない生徒が多いことがわかった。(以下グラフ)

普段から新聞をよみますか



■ 読む ■ よまない

新聞を読むことに対してハードルは高いですか



■ 高い ■ どちらかと言えば高い
■ どちらかと言えば低い ■ 低い

(3) NIE実践における目標

以上の調査結果から、生徒は新聞で社会を知ることや学びを得ることができる一方で、内容が難しく、新聞を開くハードルが高いと感じていることがわかった。そこで今回のNIE実践での目標は、

- ①新聞を読むことで要約力・語彙力などの「国語力」の強化
- ②新聞を読むことで生徒が自ら「問い」を立てることができるようになり、主体的に探究に取り組むための下地を作る
- ③新聞を読むことで生徒自身の興味・関心を増やすとともに、「新聞を読む」ことへのハードルを下げる

この三つを目標にNIEの実践を行ってきた。

2. 実践内容

(1) NIEに取り組みやすい環境整備

本校はミドルステージ・カレッジステージは図書館が共同である。図書室には静岡新聞のほか、読売新聞や朝日新聞を読むことができる。また、読売新聞のデジタルデータベース「ヨミダス for school」が生徒用のiPadで使えるようし、図書室では「ヨミダス歴史館」にアクセスすることができるようになっている。しかし、ミドルステージの校舎から図書館は距離が離れており、また高校生が多く利用していることでもあまり使用しているミドル生は多くない。そこでミド

ルの校舎に「NIEコーナー」を設置することとした。

小学校5,6年生の教室がある階には朝日小学生新聞や静岡新聞の週刊YOMOっと静岡を設置し、7,8年生の教室がある階には通年で静岡新聞、そして年間を通して届く各新聞を配置している。また、新聞台を設置して、いつでも生徒が新聞を読みやすい環境づくりを行った。新聞は1週間分を読みやすい状態にしておき、その後の新聞は生徒が自由に使ってよいものとした。

〔新聞を読む生徒たち〕



（2）朝活動「NIEタイム」の実践

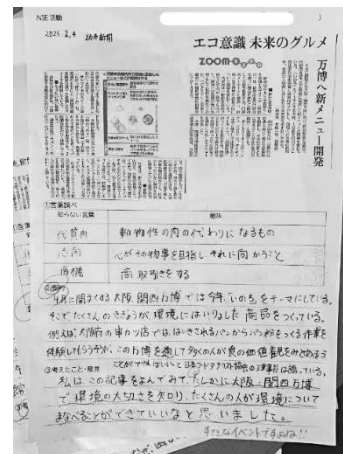
本校のNIE活動は主に朝活動における「NIEタイム」で実施してきた。本校では朝の8:15～8:30の15分間を朝活動の時間としている。そこで木曜日と金曜日の朝活動を、「NIEタイム」として行ってきた。発達段階に応じて小学校と中学校ではそれぞれ異なった活動を行い、小学校から中学校に進級するにあたりNIEの教育活動を小中接続できるような活動を行った。

①小学校でのNIEタイム

小学校のNIEタイムでは教員が記事を選択して、その記事をもとにワークシートを作成し、1週間（朝活動2回分）で生徒はそのワークシートを完成させる。そのワークシートには、記事の中から自分がわからない用語を国語辞書で意味を調べ、記事の要約、そして自分の考えや意見（感想）を書き、教員がフィードバックを行う。そして完成したワークシートは全員廊下に掲示する。そうすることで同じ記事でそれぞれどのようなことを

考えたのか、どのようなことを感じたのか生徒が共有することができるようにしている。

記事は小学校の担任がそれぞれローテーションで選んでいる。そのため、それぞれの授業で学習している内容と関連させた記事選び、また違うジャンルを選ぶことで生徒の興味・関心を見つげるための参考となる記事選びを行っている。また、1週間で1枚のワークシートを作成することで、年間を通じて約20-30枚のワークシートを作成することとなる。そうすることで年間を通じた記事の要約の練習、意味調べによる語彙の増加、そして多くの記事を読めるようにすることが小学校のNIEタイムでの目的であった。



〔NIEタイム:ワークシート〕

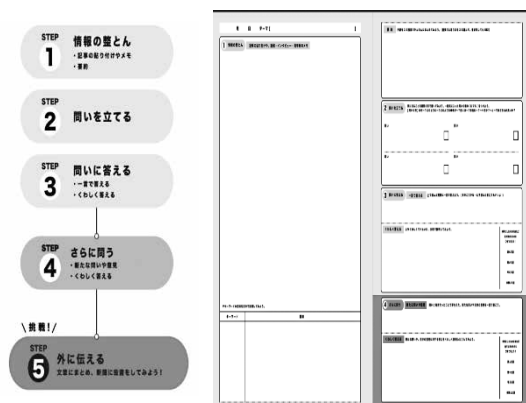


〔廊下の掲示・年間のワークシート〕

②中学校でのNIEタイム

【ソクラテスのノート】

小学校で記事をある程度読めるようになってからは、中学では「問い」を生徒自らが立てることができるようになるための活動を行った。そのため、中学校のNIE活動のために「ソクラテスのノート」というものを作成した。ソクラテスのノートでは、記事の内容を知る、感想を持つ、だけではなく「問い」を立てる事にこだわって製作した。

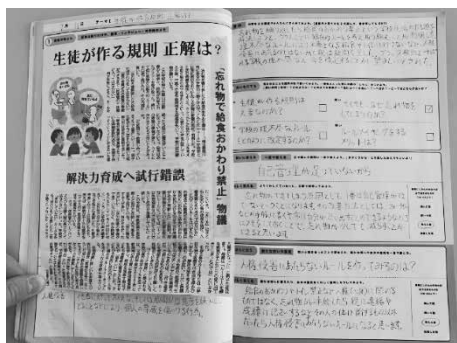


〔ソクラテスのノートを使った探究の流れ〕

このノートを使って、記事の要約に加えて、その記事から気になる問いを自分で考え、その問いに答える活動を1週間で一つの記事で実践した。

年度の初めでは小学校と同じく教員が記事をいくつか提示した上で、自分が特に気になる記事を選ぶようにしていたが、後期になると生徒が自分で新聞を読み、記事を選ぶようになった。そうすることで自分の興味・関心に即した内容の記事でNIE活動を行うことができるようになっていった。

〔ソクラテスのノート：生徒の活動〕



【まわしよみ新聞】

7年生は、10月頃から生徒が新聞を1部用意して、その新聞から自分が面白い記事を探し、クラス内で共有をし合う「まわしよみ新聞」の活動を行った。朝活動の15分間に持参した新聞を開き、その中で自分が特に興味を持った記事をマーカーで線を引きながら読む。その後、クラスの友人と自分が面白いと思った記事を要約し紹介し合う活動である。紹介した記事は、生徒のiPadで写真を撮影し、ロイロノートに保存しておく。そうすることで、なくす心配がないことに加えて、活動を続ければ続けるほど、自分の興味・関心が「見

える化」されることが目的である。また、新聞をパラパラとめくる機会を増やすことで新聞に面白い記事がある事、そして新聞を読むことのハードルを下げることを目的として行った。

7年生の3割は新聞を家で取っていない。そこで新聞を取っている他の生徒に1部多めに持ってきてもらったり、学校にある新聞を一部生徒に渡したりすることで7年生87人が全員新聞を1部読むことができるようにした。

書くことが苦手な生徒もこの活動では「自分の面白い記事を友達に教える」というものであるため、比較的積極的に活動を行っている様子が見られた。また、この活動を通して普段は新聞を開かない生徒も、友達におススメする面白い記事を求めて休み時間や昼休みなどにNIEコーナーで新聞をめくっている様子が見られた。

（3）授業での実践

授業での実践では主に国語・社会で実施した。どちらの科目も主に導入の段階で新聞を活用する機会が多かった。また、総括的評価を行うための課題として、新聞製作を各科目で実施した。各科目で新聞製作を実施することで生徒自身が調べた情報を整理して、言語化させる練習を目的とした。その際、どの科目でも意識させたことは「見出し」を必ず考えることである。見出しを必ず書くことで、自分が一番伝えたいことは何なのか簡単にまとめる力が付くことを目的とした。また、以下は各科目で通年で行ったNIE活動である。



〔歴史新聞（8年生）〕

①国語科の実践

【小論文（6年生）・通年】

本学では小学校で小論文の授業がある。そこで、小論文を作成するときのテーマ、そしてそのテーマの内容・考えや意見を新聞から探してくる活動を行った。教員が最近の社会情勢（オリンピックや能登半島地震）に関する記事の一つ選択してきてテーマを決める。そのテーマに関する新聞の記事をそれぞれ生徒たちは探し、一つの出来事に対して多くの意見や考えがあることを理解する。

記事を探すときには小学生向けの新聞の記事を教員が全体に共有するほか、ヨミダス for スクールを使って生徒が自ら記事を探す作業も実施した。

【投書にチャレンジ！（中学）通年】

中学校の国語では、年間を通して「ひろば10代の思い」への投稿を行ってきた。生徒が今気になっていることや考えていることを言語化する練習として、自分の思いを文章化する。教員が特によいと感じたものを実際に静岡新聞に投書し、掲載されたら国語の授業内で表彰を行う、という活動を行っていた。授業内で時間を設けることはあまりできなかったのも、基本的には募集という形にして、希望の生徒が行う、また夏休みの宿題として提出するものとしていた。

②社会科の実践

【導入での使用（全学年）】

社会科では年間を通じて単元の導入や授業の導入で新聞の記事を使用してきた。例えば、小学校5年生の「水産業のさかんな地域」という単元では実際に学習している内容が新聞にはどのように書かれているのだろう？と水産にまつわる記事を紹介した。また、養殖の記事を授業の導入で利用して、「この記事に書かれていることで今まで授業で習ったことがどのように書かれているだろうか」と記事の中から自分が学習した内容をペアで抜き出す活動を行った。

また、中学地理では、今授業で学習している地域や都市を新聞で探してみよう！という活動を行った。ヨミダス for スクールや、朝活動の時に持参した新聞を開いて自分が今学習している県の出来事を知る活動を、各単元の導入時、授業の最初に行っていた。

【静岡のお茶の危機（中学・日本の諸地域）】

静岡県の茶産業が現在、第1位の座を鹿児島県に奪われそうになっている。この出来事について静岡県の静岡新聞と、鹿児島県の南日本新聞ではどのように記事が書かれているのか比較することで、静岡県と鹿児島県の茶産業の共通点、相違点を理解する活動を行った。教員が両県の記事を持ってきて、この記事がどちらの県の記事なのかクイズ形式で出題することで生徒がそれぞれの視点から記事の比較をする活動をした。

（4）その他の活動

【NIE出前講座：新聞の読み方】

7年生は、9月に静岡新聞の出前授業を実施した。その時には「新聞の読み方講座」として新聞はどのように読めばいいのか、ということテーマとして静岡新聞社の方に授業をお願いした。この授業の後から朝活動の[まわしよみ新聞]を始めたが、実際にどのように新聞を読めばいいのか生徒が理解をした上でその後のNIE活動に取り組むことができたので、非常に有意義な時間だった。



【NIE出前授業の様子】

【学級活動におけるNIE】

朝活動、授業のほかに各学年の学級活動においてもNIEを利用した。例えば新学期の教室でのアイスブレイクとしての活動や、ニュース係を設定し、週に1回ローテーションで新聞記事の中から一つ、クラスに紹介したい記事を朝礼の時間に発表する等、生徒の身近に新聞がある環境を目標にしてNIE実践に取り組んだ。

3. 成果と課題

今までのNIE実践を踏まえて生徒に最初と同じアンケートを7年生87人に実施した。

【成果】

「普段から新聞を読みますか」という問いに対して「読む」と答えた生徒が39%となった。また、「新聞を読むことに対してハードルは高いですか」という問いに対して、「低い」19%、「どちらかと言えば低い」41%と、多くの生徒が新聞を読むことに対してのハードルが下がったことがわかった。また、NIE活動を通しての感想で多かったのが、「新聞はもっと難しいものだった」「新

聞はパラパラとめくるだけでも良いことを知った」という新聞記事の面白さを理解した生徒が一定数いることを知ることができた。また、朝活動においても5-8年生で最初のワークシートに比べて、現在のワークシートの方が内容・意見・問いともにレベルが向上していることを教員が実感している。これらを踏まえて、本校の目標であったNIEを通じて国語力の強化と、新聞を読むことに対するハードルを下げることはある程度達成することができた。

【課題】

「社会の情報を得るときに何を利用しますか」という問いに対してほとんどの生徒はニュース、もしくはインターネットと回答し、新聞を選択した生徒は13%にとどまった。また、新聞に対して「文字が小さくて読みづらい」「自分が求めている記事を見つけることが大変だった」という回答も少なくなかった。実際に教員側も授業で扱いたい記事を探すことになり苦勞した。ヨミダスなどをより活用して今後のNIE活動につなげていければよいと考える。

また、目標の一つである「生徒の興味・関心を見つける」ことについては効果はいまひとつであった。週に1冊では、生徒が自分の興味・関心のある記事を見つけることが難しく、まわしよみ新聞においても無難な記事を紹介している生徒が多かった。生徒の興味・関心を見つけるためには、生徒が新聞を読むことが習慣化する必要があると感じた。今回のNIE実践において新聞を読むことに対するハードルは下がったので、今後のNIE活動では「新聞をめくる事を習慣化する」ことを目標として行っていきたい。

社会変化の中で求められるNIE活動

浜松開誠館中学校・高等学校 大庭 康介

1. はじめに ～浜松開誠館と新聞～

いつも新聞に取り上げていただきありがとうございます。これからもよろしくお願いします。



2024年4月～12月
本校の関係記事が
新聞に掲載された数

1 2 5 記事以上

【生徒】 「新聞に取り上げられる」→ 生徒の自己肯定感向上+愛校心、所属意識の育成へ
→ 新聞が身近な存在に

【教職員】「新聞に取り上げられる」→ 生徒募集に貢献、自己有用感の向上+愛校心、所属意識向上
→ 新聞が身近な存在に

2. 従来からのNIE活動～「ASASAKU」を中心とした表現力育成

① 「ASASAKU」の活動

落ち着いた朝の授業前の10分間を使って朝読書を行っているが、週に1日は文章表現力を高める朝作文の時間、通称“ASASAKU”を行っている。ASASAKUは週1回、中学1年生から高校3年生までそれぞれ実施。中高に応じて新聞記事やテーマを設定し、自分の考えや感想を「書く」ことを通して文章表現能力を高めている。

2015 年 11 月高校 2 年生実施→

【新聞を配布し ASASAKU で output】

(今年度活用した全校生徒に配布した新聞記事)

- ・「2042年5月5日発行 未来空想新聞」
- ・「日本経済新聞 高校生向け特別版」

[illegible]

②「ASASAKU」の文章を応募

毎年、新聞の読者投稿を行い、新聞に掲載していただいている。

今年度は、中日新聞の「ひとこと」に応募し、12月には高校1年生6人の文章を掲載していただいた。

2024年12月11日(水) 中日新聞	2024年12月12日(木) 中日新聞	2024年12月13日(金) 中日新聞	2024年12月14日(土) 中日新聞	2024年12月17日(火) 中日新聞	2024年12月18日(水) 中日新聞
ひとこと 原田 かれん 多様な普通 「人にとって普通は通い、校内のフーチコンテストで、私はこんなことを言った、自分な言ったことではあるが、時折、おかしい」 (浜松開誠館高1年)	ひとこと 佐野 兼男 世界平和に向けて 世界平和に向けて、まずできることは、戦争を経験した方々から話を聞くこと。戦争の罪の重さ、	ひとこと 小長井 興空 せーの、1、2、3 私たちのクラスにあって宝物のよき時間を与えてくれたのが、大綱です。心が折れそうになることもありましたが、仲間と声を掛け合って励まし合うことで、クラスとして成長することができたように感じます。仲間と共に苦難を乗り越える力を教えてくれた、大切な思い出です。 (浜松開誠館高1年)	ひとこと 岩井 美瑠 幸せな日本にするために 平和にするためにはどうすればいいのかを考えた。まずは、一人でも多くの人が戦争によってもたらされる悲惨さを理解すること。そして、学校で平和について考える機会を定期的に持つ、次の世に伝えていくような働きかけをすることが、これからの未来に欠かせないことだと思います。 (浜松開誠館高1年)	ひとこと 池田 聖芽利 平和に向けてできること 私はフーチコンテストで平和について発表しました。今の私たちのいる世界は、多岐にわたる国際的な紛争問題の状況に、興味を持	ひとこと 小柳津 りこ 我がパソコン部 私の所属しているパソコン部はおもしろいと評判で、部長の卒業の日にはホワイトボードを書き添えて感謝の気持ちを伝える。動画のネタ出しのためにやらせたりゲームの反応を面白がったりと、くだらないことで笑い合える。それが部活の良き活動する金曜日だと思っています。 (浜松開誠館高1年)

③その他の取り組み

●学年活動後の壁新聞の作成、生徒会新聞作成

主に中学生が、研修旅行などの学年活動の際に、事後研修としてグループで壁新聞を作成している。また、生徒会は生徒会新聞を発行している。

●中学生の夏期課題で新聞作成

中学1年生では「都道府県新聞」中学2年生では、「歴史人物新聞」を作成していた。

左：中学1年生・浜松研修の壁新聞

右：平成28年の生徒会新聞



なぜ実践指定校ではないのにNIE活動をしていたのか？

本校では、元々新聞を購入している。「静岡新聞」「中日新聞」「読売新聞」「日本経済新聞」「日刊スポーツ」を購入している。図書室に行けば、いつでも閲覧できる環境にある。それに加えて、1. はじめに、で述べたように、新聞を身近なものに感じている生徒、教職員が多くいるからこそ、自然とNIE活動を行うようになったのではないかと推測できる。

3. 新たなNIE活動～社会変化の中で求められるNIE活動

(本校のテーマ)

- ・社会変化の大きい中で、依存的学習者から自立的学習者への変容を促し、生徒の課題解決能力を高め、広い視野で学びを社会へとつなげる教育活動として、NIEを実践していく。
- ・ユネスコスクールとして、SDGsやESDを中心とし、持続可能な世界・社会を目指すために課題を発見探究し、自ら発信する姿勢を身につける。また各教科の専門性を生かして社会との結びつきや統合的な学びを育む。

大きな社会変化の中では、Critical thinking (批判的思考力)、読解力・思考力、探究活動の3つを強化して育成する必要があるとみて、実践を行った。

①新聞読み比べコーナー・読み比べ授業で Critical thinking (批判的思考力) を育成

●新聞読み比べコーナーを設置

【前期】 静岡新聞・朝日新聞・日本経済新聞・
THE JAPAN NEWS

【後期】 毎日新聞・産経新聞・中日新聞

従来の図書室での閲覧場所に加えて、新聞読み比べコーナーを職員室前の廊下に設置した。一面記事が分かるように置き方も工夫した。

休み時間や昼休みに足を止めて新聞を読んでいる生徒も見られた。また、教職員も空き時間に教材研究の一つとして活用していた。

新聞読み比べコーナーの様子→



●新聞読み比べ授業の実施

高校2年生の学校設定科目「Global Issues 1」において、新聞読み比べ授業を実施した。10月末～11月初頭の毎日新聞・産経新聞・中日新聞の3紙をそれぞれのグループに配布し、アメリカ大統領選挙について読み比べをした。

- 1、グループで同日発行の3紙を回し読みする。
- 2、アメリカ大統領選挙についての記事を分析・まとめ
- 3、発表・意見交換

授業実施時期が、ちょうど11月後半の兵庫県知事選挙の最中であった。世の中のメディアに対する興味と連動する形で、生徒の関心が非常に高まり、良い授業となった。



↑生徒の発表したスライドの一部

↑生徒の発表したスライドの一部

②新聞を使って読解力・思考力育成～新聞記事問題作成はAIで仕事効率化を～

●「新聞を配布しているだけ、記事を提示するだけでいいのか」「本当に読めているのか」。読解力低下の問題は、NIE 活動を行う上で避けては通れない問題である。そこで、読解力を高めるワークシートを作成した。単純な読み取りを通して、新聞を「見る」→新聞を「読む」へ変容させるという狙いを持って取り組んだ。

読解トレーニング 003	読解トレーニング 003
学習日 (月 日)	学習日 (月 日)
毎日新聞 社説：2024/7/7	毎日新聞 社説：2024/7/7
東京オリンピック・パラリンピック開催のために、総額 1569 億円もの巨費を投じて整備されたスタジアムである。[] 化を機に有効活用する方策を考えていかなければならない。 2019 年に全面改築された国立競技場だ。国が施設を保有しながら、民間事業者が運営に当たる「コンセッション方式」が採用され、NTT ドコモを代表とするグループに運営権が売却される方向となった。 グループはサッカーの Jリーグを含む 4 者で構成され、運営権の対価として、30 年間で 528 億円を提案した。近く契約を結び、来年 4 月から運営を開始する。 完成時から東京大会後の運営権売却が計画されていたが、引き受ける事業者がなかなか現れず、増値に乗り上げていた。 問題となったのは陸上トラックの狭いだった。当初は大会後にトラックを取り払って観客席を増築し、サッカーやラグビーなどの球技専用にする予定だった。 しかし、収益性の高いコンサートを開催するには、機材搬入のためにトラックを残す必要があり、結局、球技専用家は撤回された。来年には陸上の世界選手権も開催される。 民営化にあたり、国は年間 10 億円を上限に費用負担する方針を示していた。 だが、NTT ドコモなどのグループは国に負担を求めず、コンサートの開催回数を増やしたり、競技場の命名権を売却したりして収益を確保する方針だ。現在は 6 万 8000 人収容だが、仮設席を加えて 8 万人に増やす計画もある。 独自の通信技術や次世代型の高速大容量通信の活用も検討しているという。従来型のスポーツ大会やコンサートだけでなく、新しい時代に即したイベントの開催が求められる。 コロナ禍では、オンラインでスポーツや音楽を楽しむスタイルが普及した。一方で現場の感動や熱狂を求める人も増えている。今後はバーチャルとリアルとの融合も進むことだろう。 これまでは立派なスタジアムを生かされていなかった。民間ならではの柔軟な発想や工夫によって、市民が魅力を感じる施設にしてみたい。 記事を読んで問いに答えよう。 問 1 本文を踏まえ、空欄に入れるのに適当な語を選びなさい。 ア 固有 イ 民営 ウ 事業 問 1 「引き受ける事業者がなかなか現れ」なかったのはなぜですか？ 問 2 コンセッション方式とはどのような方式ですか？	東京オリンピック・パラリンピック開催のために、総額 1569 億円もの巨費を投じて整備されたスタジアムである。[] 化を機に有効活用する方策を考えていかなければならない。 2019 年に全面改築された国立競技場だ。国が施設を保有しながら、民間事業者が運営に当たる「コンセッション方式」が採用され、NTT ドコモを代表とするグループに運営権が売却される方向となった。 グループはサッカーの Jリーグを含む 4 者で構成され、運営権の対価として、30 年間で 528 億円を提案した。近く契約を結び、来年 4 月から運営を開始する。 完成時から東京大会後の運営権売却が計画されていたが、引き受ける事業者がなかなか現れず、増値に乗り上げていた。 問題となったのは陸上トラックの狭いだった。当初は大会後にトラックを取り払って観客席を増築し、サッカーやラグビーなどの球技専用にする予定だった。 しかし、収益性の高いコンサートを開催するには、機材搬入のためにトラックを残す必要があり、結局、球技専用家は撤回された。来年には陸上の世界選手権も開催される。 民営化にあたり、国は年間 10 億円を上限に費用負担する方針を示していた。 だが、NTT ドコモなどのグループは国に負担を求めず、コンサートの開催回数を増やしたり、競技場の命名権を売却したりして収益を確保する方針だ。現在は 6 万 8000 人収容だが、仮設席を加えて 8 万人に増やす計画もある。 独自の通信技術や次世代型の高速大容量通信の活用も検討しているという。従来型のスポーツ大会やコンサートだけでなく、新しい時代に即したイベントの開催が求められる。 コロナ禍では、オンラインでスポーツや音楽を楽しむスタイルが普及した。一方で現場の感動や熱狂を求める人も増えている。今後はバーチャルとリアルとの融合も進むことだろう。 これまでは立派なスタジアムを生かされていなかった。民間ならではの柔軟な発想や工夫によって、市民が魅力を感じる施設にしてみたい。 記事を読んで問いに答えよう。 問 1 本文を踏まえ、空欄に入れるのに適当な語を選びなさい。 イ 民営 問 1 「引き受ける事業者がなかなか現れ」なかったのはなぜですか？ 問 2 コンセッション方式とはどのような方式ですか？

ここで問題になるのは、教員負担の問題である。パターン化された構成の上、タイムリーな記事で数多くこなしたいため、生成 AI を活用して業務効率化を図り、ワークシート作成を行った。

まず、題材となる記事を探す。その際、なるべく客観データや事実が記載されているものとする。ネット配信記事の場合はそのまま使い、新聞の場合は Google Keep の文字認識機能などを使って文字データ化する。そして、記事の文字データとともに、あらかじめ作成したプロンプト（命令文）を貼り付け、生成 AI に読み込ませる。生成された設問は AI ごとに若干のゆれがあるので、ChatGPT、Gemini、Copilot 等複数のサービスを用いて比較対照し、適切な設問を選ぶ。

最後に、実際のワークシートの体裁に整え、完成させる。模範解答も同時に生成 AI に作成させるので、実際に記事を探してからこれらの作業は 15 分～20 分程度である。

【プロンプトの例】

命令書

あなたは高校生を教える日本の学校の国語の教師です。生徒たちに、論理的に文章を読むための訓練をして文章読解力や論理的思考力を高めたいと思い、# 課題文をもとに、下記の # 制約条件に忠実に従って、生徒に読解力のテストを作成したいと考えています。どのような設問が適当か、考えてください。また、併せて解答例も作成してください。

制約条件

- * 生徒が課題文を読み取り、文章の要点や内容の深い理解を測るテストとすること
- * 設問数は 5 問以内とすること
- * 単語または簡潔に回答できる問題とすること
- * 一部は選択肢問題でもかまわない
- * 思考の転移を伴う問題も 1 問加えること

③夏期休業中の宿題は新聞を使って探究活動

NIE活動の一番の見せ場が夏期休業中の課題。従来の活動は、本校独自の「都道府県新聞」「歴史人物新聞」であった。それを新聞社主催のコンクールに応募することで、探究活動をより良いものにしていく。

●中日新聞主催 新聞作品コンクール



↑ 優秀賞を受賞した中学1年生の作品

中学1年生の夏期休業中の課題を「静岡県の〇〇新聞をつくろう」とし、中日新聞の新聞作品コンクールに応募した。

(おすすめポイント)

- ・用紙が用意されているため、書き方が分かりやすく、生徒にとっては作りやすい。
- ・4コマ漫画や広告も自分で作ることができるため、楽しみながら作成できる。

事後学習として、静岡新聞NIEコーディネーターの矢澤和宏様を招き、新聞講座を開いた。新聞作成後ということで、生徒の興味関心が非常に高かった。

●日本新聞協会主催 いっしょに読もう！新聞コンクール



中学2年生の夏期休業中の社会科課題として、「いっしょに読もう！新聞コンクール」に応募した。

(おすすめポイント)

- ・記事を選んだ理由、親などの他者の意見、考えたことの3つを分けて書く形をとっており、書きやすさがある。
- ・夏期休業中の家族のコミュニケーションのひとつになる。

学校奨励賞と生徒1名が優秀賞を受賞した。

●英字新聞活用、英字新聞作成



高校3年生のグローバル科目の課題として、「英字新聞作成」に取り組んだ。

(やり方)

- ① THE JAPAN NEWS by the Yomiuri Shimbun にSDGs 付箋を貼り付け、グループで意見交換
→英字新聞に親しむ、理解する
- ②内容は、各自の探究活動の総まとめ
左の作品テーマは「洋服の墓場」。
- ③各自1つの英字新聞を作成する
英字新聞甲子園への応募も考えたが、1作品につき2,000円というコストもあり断念した。

4. NIE活動により見えてきた成果と課題

2年間のNIE実践指定校としての活動を行い、以下の成果・課題が見えてきた。

①本校の強みの一つに「新聞」「NIE活動」があること。

A S A S A K Uを中心とした表現力育成の活動が始まって、しばらく経っている。これまで、NIE活動ということは意識していなかった。実践指定校となり、発表や研修、過去のデータベースなどをみると、「今までやっていたことがNIE活動だったのか」と知ることができた。

I C T教育、グローバル教育、E S D教育やS D G s教育など、私学である私たちは、近年のトレンドともいえる教育を先に進めてきた。しかし、県や国も予算を付け、県公立の中学校・高等学校も同じようにトレンドの教育を進めてきている現状がある。NIEはどうだろうか。多くの県公立のNIE活動の課題には「指定校でなくなったら新聞をどのように入手するのか」とある。本校は、5紙の新聞を20年近く、購入し続けている。その成果もありNIE活動の土台がある。NIE活動を強化、発展させていくことが、本校の強みとなる可能性があるかと教職員が理解できたことが成果である。

②新聞の居場所は図書室なのか。

本校において、従来の新聞閲覧コーナーは図書室にある。多くの学校が、図書室に新聞閲覧コーナーを設けていると思われる。昼休みに図書室で新聞を眺めている生徒もいるだろう。今回、指定校となり、職員室前にNIEコーナーを設置した。職員室前という人の往来が多い場所ということで、生徒が新聞を目にする機会が増えた。しかし、一番増えたのは、教職員が新聞を手に取り読む機会であり、教材の一つとして新聞を使い授業実践する機会である。「教員ならば家庭で新聞を購入している」という時代ではなくなっている。学校における新聞の意義は、授業や学校活動の中で教材となることであると考えられる。いままで本校の教員は、どれだけ新聞を教材にしてきたであろうか。新聞の居場所は図書室ではないのかもしれない。

③批判的思考力、読解力・思考力の育成成果は見えない。活動の継続が必要である。

新しいNIE活動の成果はまだ見えない。数値でも表すことができない。しかし、取り組んだことで、この2つが課題であることは明確になった。

新聞読み比べ授業の生徒の振り返りに「新聞はすべて同じものが書かれていると思っていた」という記述があった。本校はiPadを導入して10年が経つ。外部の講師を招き、ネット教育講座も開いているが、メディア、情報というものがどのようなものかが理解できていない。生徒のニュースサイトには、アルゴリズムも作用し、興味のある見たいものしか表示されなくなる。このアルゴリズムすら知らない生徒が多い。その現状の中で、NIE活動で育てていきたいのは、情報をうのみにしない批判的思考力である。

また、生徒の読解力・思考力の低下も著しい。A Iが作った簡単な新聞の読み取り問題の正答率が低い生徒がいる。新聞が正確に読めていない生徒もいる。NIEだけの問題ではないが、手を打たなければいけないことは確かだろう。こればかりは根気強く取り組んで行くしかない。

社会に目を向け、視野を広げるNIE

～「探究」での活用に向けて～

静岡県立磐田北高等学校 高井 恵実

1. はじめに

(1) 学校紹介

静岡県立磐田北高等学校は、磐田市に位置する普通科4クラス、福祉科1クラスの全日制の学校である。もとは女子高であったが、1999年に男女共学校となり、2024年で創立115年を迎えた。

校訓「優しく 逞しく 誠実に」のもと、多様な生き方や価値観を認め、人との関わり大切さを体験から学ぶ教育を通して、自他の人間性と人格を尊重し、個人として自立することができる生徒を育成する。

また、進学から就職まで生徒の多様な進路希望や一人ひとりの適性に合った学びを実現し、心身ともに健康なたくましさ未来を切り拓き、社会の変化に対応できる資質・能力及び実践力を持つ生徒を育成することを目指している。



(2) NIE実践の目標設定

本校では「総合的な探究の時間」の学びの中に新聞活用（NIE）を位置付けることにした。「総合的な探究の時間」で育成することを目指す資質・能力について、それらの目標を実現するための手段として、新聞活用が有効であると考えた。生徒が、多くの情報の中から必要な情報を効果的に収集し、多角的かつ实际的に分析する。そして社会との関わりを理解し、自己の将来について具体的に考えることによって、自らの夢や希望につなげていくことができる。「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」という探究のプロセスに新聞を活用することは、非常に有効な手段である。したがって、「各教科、総合的な探究の時間、朝活動で新聞を活用することで、本校生徒が時事問題に関心を高め、自らの将来像を考えるきっかけとするとともに、読解力向上を図る」ことを目標として、NIEを実践した。

2. 実践の概要

(1) 生徒の実態

設問.1

R5

家庭で紙の新聞を購読していますか？

回答

番号	回答内容	グラフ 	割合	回答数
1	ア 購読している		43.3%	294名
2	イ 購読していない		56.7%	385名

R6

家庭で紙の新聞を購読していますか？

回答

番号	回答内容	グラフ	割合	回答数
1	ア 購読している		35.0%	201名
2	イ 購読していない		65.0%	373名

設問3 紙の新聞をどれくらい読んでいますか？					R5
回答					
番号	回答内容	グラフ	割合	回答数	
1	ア 1週間に5日以上		1.6%	11名	
2	イ 1週間に3～4日		1.8%	12名	
3	ウ 1週間に1～2日		13.4%	91名	
4	エ 1週間に0日		83.2%	565名	

設問3 紙の新聞をどれくらい読んでいますか？					R6
回答					
番号	回答内容	グラフ	割合	回答数	
1	ア 1週間に5日以上		1.6%	9名	
2	イ 1週間に3～4日		0.9%	5名	
3	ウ 1週間に1～2日		11.1%	64名	
4	エ 1週間に0日		86.4%	496名	

NIE活動に取り組むにあたり、家庭での新聞購読の実態のアンケート調査を実施した。令和5年、6年ともに新聞を購読している家庭は半数にも満たない。また、新聞を読む日が1週間に0日という生徒が8割以上である。日常生活で新聞を手にする機会や、新聞に対する関心が低いと言わざるを得ない状況である。まずは新聞を今より身近なものにしていく必要がある。

(2) 学校全体としての取り組み

① 北っ子新聞室（NIEの部屋）の運営

従来、図書室入口にあった新聞の架台も移動させ、新聞に関わるセンター的機能を職員室近くのNIEの部屋に集中させた。生徒の委員会活動として各クラスにNIE委員を置き、当番で新聞管理などにあたった。これにより、新聞の配架およびバックナンバーの管理、新聞を活用した掲示物の掲示などを生徒自らがを行い、生徒、職員ともに新聞をより使いやすい環境を整えた。



② NIE週間

10月後半の2週間、NIE委員会を中心とし、全校で朝活動の時間を使い取り組んだ。令和5年度は、各クラス5～6人のグループを作り、それぞれが興味を持った記事を持ち寄り、記事の要約と感想を紹介し合った。また、グループのメンバーからの意見も出し合い共有することができた。

令和6年度は、「新聞7紙の一面記事の読み比べ」を実施した。各クラスを7グループに分け、同じ日付の新聞7紙を配布し、1面のトップ記事についてグループワークを行い、新聞各紙の記事の取り上げ方などをクラスで共有した。クラス発表の後、学年ごとに模造紙にまとめ、北っ子新聞室前の廊下に掲示し全校で共有した。

中には、活発な意見交換ができたグループもあり、新聞社により取り上げている記事が異なることが分かった。新聞の特性を知るよい機会になった。



4班	メンバー	
	静岡新聞	9月5日
トップ記事の見出し	待望新米	
トップ記事の内容	全国的に米の品薄が続く中、県内で新米の収穫量が本格化してきている。地元流通関係者には、県内にも店頭品の品薄状態が解消に向かうとの見方が強くなっている。販売価格は高止まる可能性もあるが、生産者は「生産コストの高騰が続いている。価格転嫁に理解を」と訴えている。	
なぜこの記事を一面にしたと思うか	最近になって、米が大雨や気温上昇で品薄となり、スーパーマーケット等で米を手に入られなくなったというニュースが大々的に取り上げられていたため。	
記事から感じたこと	生産者が米の値段の高騰の理由について、理解をしてほしいと思っている様に感じた。米農家は、長年ギリギリの収支で生産してきた、そのせいで作り手が減少しているので今の米の価格に納得してはいないと訴えている風を感じた。	
他の新聞と比べて気づいたこと・感想	全国ニュースより県内のニュースが多く取り上げられている。同じ日の新聞でも記事に取り上げる内容は異なる。わかりやすく米価の高騰の理由についてまとめられていた。	

(3) 学年としての取り組み

① 朝活での新聞ニュース発表

1年生では、社会に目を向け視野を広めることを目的として、朝活動の時間に毎日1人、新聞記事を用いた発表を行った。1学期は、担当者が記事の要約と記事に対する自分の意見を発表していたが、2学期からは、発表に対しての意見交換も実施した。生徒は、記事を読解する力を付けていく必要性を自覚した。

新聞に目を通すことにより社会に目を向けるきっかけになったと思う。



② 「シンブリオバトル」開催

1年生では、11月19日(火) LHRで実施。「シンブリオバトル」とは、参加者同士で新聞記事を紹介し合い、最も読みたいと思う記事を参加者全員の投票で決める。参加者の教養を広げるだけでなく、参加者同士の交流を楽しむことを目的に開催した。

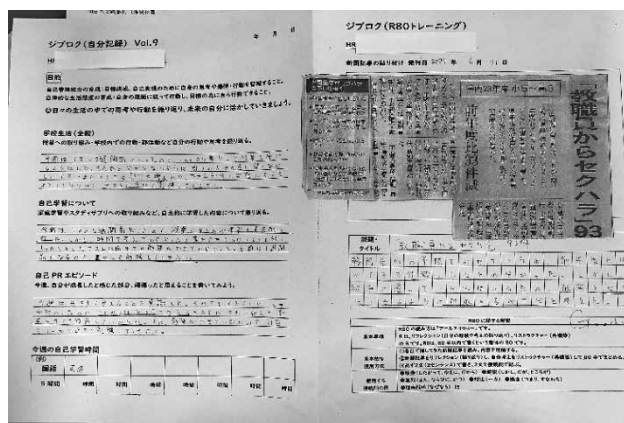
事前準備は、1) 各クラス7グループに分かれ、提示してある【政治、経済、国際、スポーツ、地域、医療、福祉、教育】の中からテーマを決める。2) グループのテーマに沿った内容で『友人に紹介したい、とっておきの記事』を写真に撮り、自分のグループA～Gのシートへ貼付する。3) 各自3分以上の推しトーク（記事の内容・自分の意見等）の準備、である。



LHRでは、グループチャンピオンを決定するところまでしかできなかったが、その後、朝活動の時間を使いクラスチャンピオンを選出した。毎朝、新聞発表の機会を持っているためか、比較的活発な意見交換ができていた。グループで取り上げたテーマは偏りはあるものの、高校生に興味・関心が薄いと予想していた政治、経済など多岐にわたる内容であった。

③ 「ジブロク」(自分記録)

3年生では、「ジブロク」に取り組んだ。「ジブロク」は、日々の生活の中での思考や行動を振り返り、未来の自分に生かしていく力を養うことを目的とした取り組みである。1学期に週に1回程度、新聞記事を使って「R 80」のルールを使い課題を提出させた。「R 80」とは、自分で新聞記事を選び、その要約文と感想を2文構成80字でまとめるものである。定期的に取り組んでいくことで新聞を読み、それを簡潔にまとめる力、またそれによって自分の意見を発信する力を養った。視野を広げ進路実現の力となった。



(4) 授業での実践事例Ⅰ

① 「公民科（政治・経済）3年生」

② テーマ：コラムを利用した現代社会の理解

③ 現在、日本および世界で起きている出来事を理解するための一助として、新聞紙上（Web上も含む）に掲載されたコラムを利用した。普段、生徒たちは様々な情報をSNSを中心に獲得することが多いが、使用されているアルゴリズムの特性もあって、自身の考えに近い意見しか目にしない可能性が高い。

学期に数回、その時々で紙上をにぎわしている事件や出来事に言及している一面コラムや社説を使用して内容を要約し、見出しを付け（社説のように見出しが付いているものは見出しを削除して提示する）、さらに感想を書く、という作業をさせた。時間に余裕があれば、4～5人のグループを作らせ、見出し等の発表とディスカッションをさせる。記入シートは、Google Classroom を使用して配布・回収した。

④ 興味を持たせる工夫：シートへの記入が終了（場合によってはディスカッション終了）したら、授業者が扱ったコラムに関する少し踏み込んだ解説を行って興味・関心を持てるようにした。

⑤ 実践後の変化：最初は面食らっていた生徒たちも、回を重ねるに従ってきちんと要約ができるようになってきた。同時に見出しも的確な表現が付けられるようになってきた。令和6年は秋に国政選挙が行われたこともあって、多少なりとも政治に目を向ける生徒が増えたように感じた。

⑥ 留意点：令和6年は1学期に県知事選、2学期に衆議院議員選挙が行われたが、授業の対象学年が3年生であり、すでに有権者となっている者もいる中での授業となり、授業者の発言が生徒たちの投票行動に大きな影響を与えることの無いように、極力生徒自身で考えるよう促した。

⑦ 取り上げた事件・出来事の例

袴田事件再審、死刑制度、旧優生保護法訴訟、静岡県知事選挙、自民党総裁選、石破内閣発足、衆議院議員総選挙、アメリカ大統領選挙、X（旧 twitter）について、パレスチナ問題 他

(5) 授業での実践事例Ⅱ

① 「保健 21HR・25HR」

② 朝日新聞・静岡新聞・毎日新聞等から選んだ記事を、関係資料として印刷物で毎時間配布した。毎時間配布し、読んでおくように指示、次の時間に5分程度のグループワークを行い代表者が発表をした。スクラップ記事は保健に関する内容で、授業に即している内容を毎時間提供するよう努力した。

③ 興味を持たせる工夫：難解な語句や薬品名などは生徒にクロームブックで検索をさせ、内容を全体に発表させた。記事の印刷物もできるだけ直近の内容を選んで提示している。

④ 生徒の様子：期末テストの一部に配布したスクラップの内容を問題とすることで、新聞を再度読み返し社会と接する機会となった。

(6) 授業での実践事例Ⅲ

① 「福祉（第3章第11節 障害者福祉の今後のあり方）実教出版社」「福祉（社基①、②、③）」

② 研究テーマ：障害者を支える社会福祉サービスについて、障害者総合支援制度と関連付けながら、関係する法規や障害の概念、障害の法的定義、障害者の実態、各制度の背景、理念、社会福祉サービスの概要と現状について理解する力を養う。

③ NIE授業に興味を持たせるための工夫：生徒の身近に感じる新聞記事を授業プリントで活用した。新聞記事を要約し意見・感想を書き、グループワークを通して思考を深めた。

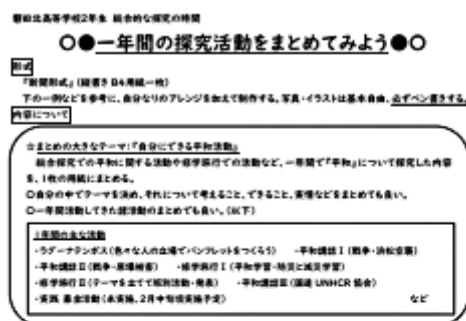
④ 実践前後の変化、実践の感想、今後の課題：生徒は、日常生活において障害者の方と接する機会が少なく、障害者理解が深まっていない状況であった。他科目の介護実習では、実習を通して直接障害者の方と関わることがあったが身近に感じるができずにいた。そのような状況を踏まえ、日常生活を送る中で生徒が身近に感じる新聞記事を授業で活用し、グループワークや振り返りシートを重ねる中で、障害者福祉に関する理解が深まったと感じられた。

⑤ 授業者は、今までは、1社の新聞記事から授業で活用できる新聞記事を選んでいたが、生徒にとって身近に感じる新聞記事を選ぶために、数社の新聞記事を読み比べるようになったことで、微妙な表現の違いに気付くことができるようになった。また、生徒たちが主体的に新聞記事を活用し福祉をテーマとした振り返りとして「新聞づくり」に取り組んでいくには、まとまった時間を確保することが課題である。



(7)「総合的な探究の時間」での実践

2年生では、「平和学習」をテーマとし「総合的な探究の時間」の学習を進めるにあたり様々なメディアを用いて情報収集を行ってきた。1年間の探究活動のまとめとして新聞形式にまとめを作成する。新聞を参考にして、効果的な情報の伝え方を学んでいく。



3. 実践の成果と課題

令和7年1月に実施したNIEアンケートの結果から、①「身の回りや社会で課題になっていることがわかる実感」、②「正しい情報を取捨選択し読み解く情報活用能力が身についている実感」、③「社会への関心が高まり、自分ごととして考えを深めているという実感」が「少しはある」以上の生徒が① 88.2%、② 79.2%、③ 79.6%であった。生徒の伸長は明確ではないが、生徒は、新聞を使ったNIE活動が自分の成長に良い効果をもたらしているという実感を持つことができた。

メディアやSNSなどに情報が溢れる中、様々な情報収集の方法があるが、新聞による情報を読ませることは、正しいファクト認識をもたらし、それに基づく解説を理解することで論理的な思考を養い、究極的にはメタ認知を高める上で有益であると考えている。教員が、メディアリテラシーを踏まえた指導を生徒へ効果的に行っていくよう、教養を広げていく必要がある。

生徒は、様々な取り組みにおいて主体的に新聞記事を選び、自分の意見や感想を積極的に述べようと努力し始めた。確実に視野は広がっていると思われる。世の中の出来事を知り、自分事として捉えることができたり、他者の意見を参考に考えを深めたりするきっかけとなった。今後は、継続的な働きかけにより探究活動が充実し、自己の将来について具体的に考える一助として進路実現につなげていきたい。



委員会活動を通したNIE活動

静岡県立浜名高等学校 岩本 直子

1. はじめに

(1) 学校概要

本校は浜松市浜名区（旧浜北市）に位置する全日制普通科と定時制普通科が設置されている高等学校である。

全日制課程は、各学年9クラスであり、全校生徒は約1050人の大規模校である。令和4年度に創立110周年を迎え、令和6年度より文部科学省DXハイスクール事業の指定を受けている。

生徒の約8割が四年制大学や専門学校への進学を希望している。また、部活動も盛んに行われており、オリンピック代表を輩出した陸上競技部、全国大会に出場経験のある剣道部、サッカー部、野球部、水泳部、ソフトテニス部の運動部だけでなく、写真部、吹奏楽部、書道部、美術部、史学部などの文化部も全国大会で入賞するなど意欲的に活動に取り組んでいる。特に史学部は、地域の歴史や政策について文献調査などフィールドワークを積極的に行っており、今年度の全国高文祭において優秀賞を受賞している。

学校外での活動にも積極的に取り組んでおり、トビタテ留学！Japanで、カナダ・トロント市に「多民族国家における英語教育」をテーマに短期留学した生徒やモンゴル国への交換留学、被災地訪問研修など静岡県が行っている事業への参加希望も多いのが特徴的である。

定時制課程は、各学年1クラスで約100人の生徒が学んでいる。製造業の工場が多く立地している関係から海外にルーツを持つ生徒が多い。そのため、日本語の補講授業や海外の学校とオンラインで交流するなど独自の取り組みを行っている。また、部活動において全国定時制通信制高校バスケットボール大会で3位、全国高校定時制通信制生徒生活発表大会において教育振興会会長賞を受賞している。

(2) スクールミッション・スクールポリシー

本校のスクールミッションは、次の通りである。

(ア) 全日制課程

「高きを求めて文武両道に励む」百年を超え

る歴史と「明るく朗らか」な校風を有する北遠の普通科拠点校として、挑戦・探究による「未来創造プロジェクト」などの「志」「学力」「豊かな人間性」を育む生きた教育を通して、自己と社会の未来を創造する「気概」「能力」「品德」を持ち合わせた、時代をリードし幅広く活躍する人材の育成を目指す。

(イ) 定時制課程

学ぼうとする志を大切にする北遠の定時制普通科高校として、生徒の学習ニーズや進路希望に応じた多様な学びと自己肯定感を育む様々な教育活動を通して、多様な個性・価値観を認め合い、自信と誇りを持って生きる、地域社会で活躍できる人材の育成を目指す。

2. 本校の取り組み

(1) 学校全体での取り組み内容

本校では、「新聞から得られる情報を自分ごととして、多角的・多面的に分析し、問いを立て、主体的に学ぶことができる」という目的を設定し、各委員会活動を通して、新聞の利活用を進めることとした。

また、定時制課程では新聞や日本語に触れる機会を増やすため、国語の授業内で新聞を利活用することを中心に取り組むこととした。

(2) NIE活動を通して身に付けさせたい力

NIE活動を通して、生徒に身に付けさせたい力を次のように定めた。

(ア) 全日制課程

委員会活動を通して、主体的に問いを立て、多角的・多面的に情報を分析し、情報を発信することができる。

(イ) 定時制課程

授業を通して、新聞から情報を読み取る力や漢字を中心として日本語を学び、文章読解力や表現力を学ぶことができる。

3. 本校の具体的な実践について

本校においてNIE活動を推進する上で、生徒の家庭における新聞の定期購読率を調査した。

「あなたの家では、新聞を定期購読していますか？」という問いに対して、新聞を定期購読していると答えた生徒が51.6%であった。定期購読していないという生徒が48.3%であった。抽出したクラスでのアンケートであるが、約半数の家庭で新聞を定期購読していないということが明らかになった。また、新聞を定期購読していないと回答した生徒は、ニュースなどの情報はテレビやインターネットのニュースサイト、SNSと回答している。

(1) 新聞の置き場所の工夫

新聞をより多くの生徒が触れる機会を増やしたいと考え、図書室などの限られた空間ではなく、生徒の移動教室等で利用することが多い、渡り廊下に設置した＝図1＝。

また、各紙の記事を比較できるように、同じ閲覧台＝図2＝に置いた。定時制には海外にルーツを持つ生徒が約半数いるため、日本語の新聞だけでなく、英字新聞も置くようにした。教職員は複数の新聞記事や見出しを比較や小論文対策などで活用することが増えたと感想を述べている。



図1 新聞閲覧台設置場所



図2 新聞閲覧台

(2) 放送委員会

放送委員会では、昼休みの時間帯に生徒が持参した音楽を流す活動をしている。

新型コロナウイルス感染症の感染予防で黙食を実施した際に、昼食時間を和ませたいということで音楽を流し始めた。第5類に移行後も昼食時間と休憩時間のメリハリと教職員の休憩時間の確保のため、音楽を流すことで、時間の目安とするために継続して行われている。

今回の実践では、放送委員が紹介したい新聞記事（ニュース）を選び、放送を始める前に紹介した。図3は、令和6年7月7日（日）に静岡新聞に掲載されたものである。この記事内で2人の生徒が実践についての感想を述べているので、紹介する。

記事の選び方について、1年男子生徒は「極力明るい話題を選ぶ。話し方も興味を持ってもらえるように心掛けています」と答えている。

2年女子生徒は「普段から新聞に目を通すようになり、ニュースを考えるきっかけとなった」と答えている。

新聞から入手した情報を分析し、他者に分かりやすく伝える力を身に付けることができたと考えている。読解力、情報分析力、情報伝達力、表現力などを向上させることができたと考えている。



図3 活動紹介記事

(3) 保健委員会

保健委員会では、健康に関係する新聞記事だけでなく、様々な分野の記事を選択し、まとめることを実施している。図4は、保健委員会で示した新聞記事のまとめ方である。

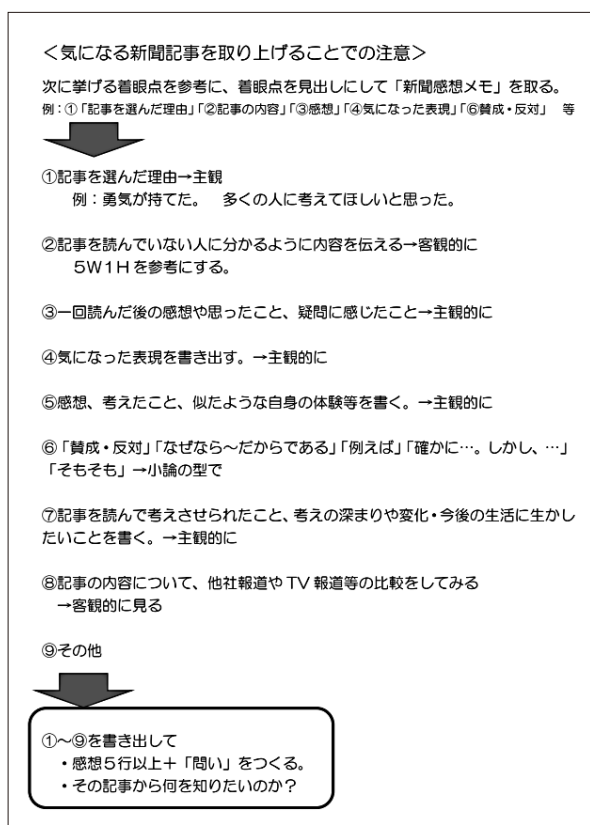


図4 保健委員会 新聞のまとめ方

図5は、生徒が作成したものである。図4の流れに従い、新聞記事を読み込み、見出しを付け、内容の整理、賛成や反対としての意見を表明して、感想でまとめている。

この作業を何度と繰り返すことで、情報収集力、情報分析力、伝達力、表現力などを身に付けることができたと考えられる。



図5 保健委員会 成果物

図6は、11月28日に本校で開催された学校保健委員会で、健康と新聞記事のまとめなどを活動成果として学校医の前で発表した。

学校医から「学校保健委員会を生徒が主体となって活動的に実施できていることは、素晴ら

しいことである」と言葉をいただいている。

発表した生徒は、「自分たちの発表を評価してもらえてうれしい」と話していた。新聞記事のまとめについても、新聞で書いてある内容を調べることで、自分たちに関係することとして、記事の内容を考えるようになってきたと話してくれた。自分ごととして、問いを立てることができるようになってきたと考える。



図6 学校保健委員会での発表

(3) 防災委員会

本校には防災委員会があり、生徒の防災意識を高めることを目的としている。図7は、修学旅行で訪問した兵庫県神戸市の震災遺構などと能登半島地震に関連する記事からまとめを行っている。

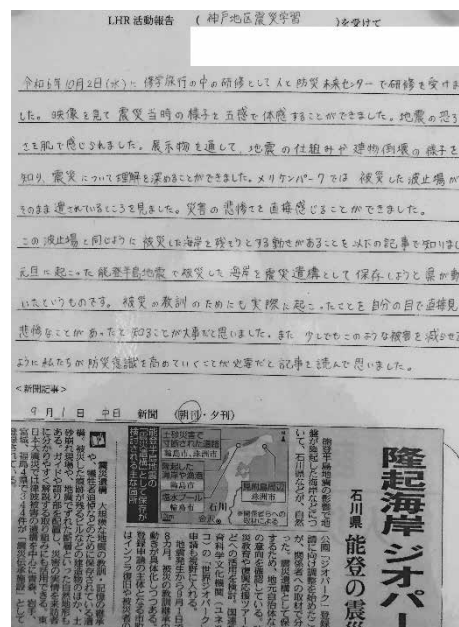


図7 防災委員の掲示物

このまとめの中で、実際に震災遺構を見学したことで、生徒の心の中にリアルな世界と新聞記事での世界がつながったと考えられる。防災委員は、このような新聞記事のまとめを校内各

所に掲示し、防災意識を高めることを行っている。

(4) 図書委員会

図書委員会では、「私の誕生日の新聞記事」ということで、自分の誕生日の新聞記事から気になったものを紹介するという取り組みを実践した。図8は、生徒が提出したものである。



図8 図書委員 私の誕生日の新聞記事

この生徒は、自分の誕生日に関心がある記事に、幼児虐待の記事を選んでいいる。コメントには、私ができることを見つけたいと記載しており、自分に関係するものとして考え始めたと思われる。

これ以外にも図書委員会では、図9にあるように、月曜日から土曜日まで連載されている記事を掲示して、一週間のまとめを実践した。連載された記事を使うことで、生徒自身が物事を連続して考えることができるようになると考えられる。



図9 連載記事の掲示

(5) その他の委員会

上記した委員会以外でも生徒委員会や交通安全委員会など各委員会が新聞記事を活用し、生徒に向けて、解説を行うなどを実践した。生徒自身が様々な立場から新聞を活用することが進められた。

(6) 定時制課程

定時制課程では、国語と商業の授業で新聞記事を活用することで実践が進められた。

定時制課程は、全生徒の約4割が海外にルーツを持つ生徒で占められており、日本語指導も行われており、新聞を紙媒体のまま使用することは難しいということであった。

しかし、デジタル新聞を使い、ルビや注釈をつけることで、難読の漢字を読めるようにすることができた。また、内容的にも難しい言葉が多いため、子ども新聞の活用なども検討された。

令和6年度は、英字新聞を導入して日本語での新聞記事と英字新聞の記事を活用して、読み比べなども行われた。

4. 実践の感想と今後の課題

(1) 成果

今回のNIE活動を通して、新聞各紙に触れる機会が増えたことは、生徒が探究的な学びを進めるためには、必要な能力であると考えられる。

平成30年度改訂の学習指導要領からは、探究的な学びの推進が高等学校改革の核となっており、調べる、まとめる、発表するといった調べ学習の領域から問いを立てる、フィールドワーク、まとめる、発表するといったものに変化してきている。情報収集や過去の事例などを検索するには、新聞という媒体は有効である。

しかし、各家庭が情報収集の媒体を新聞からインターネットに変化させたことで、情報収集や分析力などが格段に向上しているが、情報を精査する能力が必要となってきたと考えられる。

今回、実際に紙媒体である新聞紙を使ったことは、生徒の情報収集力や情報分析力、情報伝達力などに大きな影響を与えたと思われる。

新聞という身近な媒体を利用することで、総合的な探究の時間や各教科の探究的な学びを深める題材として、有効な手立てであると考えられる。

(2) 課題

今回の実践での課題は、三つ挙げられる。一つ目は、文章読解力の低下である。各委員会も保健委員会の実践にあるような書き方を提示した。しかし、あらずじに感想を付けたものが多くなってしまったことが挙げられる。事前指導として、各委員会のフォーマットをそろえるなどの工夫が必要であった。文章を読み込む力が弱くなってきたと思われる。活字を読むという

習慣を持たせることが必要である。

二つ目は、新聞記事で書かれているものを自分ごととして、捉えることができていない点になる。インターネットなどで流れてくる情報は単発であり、善か悪かで判断するだけのものも多いが、新聞では歴史的な背景なども考慮することになっている。

今回、授業以外で新聞記事を使用したことで、生徒が様々な立場で考えることができるようになったと考えられる。

三つ目に、定時制課程では、実践が最後までやり続けることができなかったが、海外にルーツを持つ生徒が約半数をいるということもあり、紙媒体の新聞を読むということが難しい生徒が多いということも明らかになった。

そのため、デジタル新聞を活用するために、ルビや注釈をつける配慮が必要となる。日本語教育も含めた学びが進められると思われる。

成果と課題から見えてくるものは、表裏一体であると考えられる。生徒の課題が見えてきたもので、本校の身に付けさせたい力を検討することにつながったと思われる。

(3) 最後に

今回の実践を通し、生徒たちが卒業までに身に付けさせたい力と資質・能力をつなげて学びに向かうことになると考えられる。

また、NIE 活動を授業の場面で活用するのではなく、委員会活動といった様々な立場で実践を進めることができたことで、生徒たちが自分ごととして、物事を考えるきっかけとなったことは、大きな成果である。

今回、このような機会を与えていただき、教職員一同感謝申し上げたい。

【参考文献】

小杉 幸一著 遠高校生の聲 その壺 静岡県立遠江総合高等学校 新聞投稿集 2015 年

小杉 幸一著 遠高校生の聲 その式 遠高作文教室 2019 年

静岡県N I E 推進協議会 実践指定校一覧

2000 年度	熱海高、磐田・城山中、静岡西高、静岡聾学校、天竜・下阿多古中、静岡・長田南小、浜松・東小、三島・佐野小、掛川・桜木小
2001 年度	静岡西高、静岡聾学校、天竜・下阿多古中、静岡・長田南小、浜松・東小、三島・佐野小、掛川・桜木小、長泉高、小山・北郷中、浅羽中
2002 年度	長泉高、小山・北郷中、浅羽中、静岡城北高、磐田南高、浜松城北工業高、静岡中央高、焼津中、湖西中、静岡・富士見小、熱海・初島小、浜北・大平小
2003 年度	静岡城北高、磐田南高、浜松城北工業高、静岡中央高、焼津中、湖西中、静岡・富士見小、熱海・初島小、浜北・大平小、天竜養護学校、加藤学園暁秀中・高、浜松・江南中
2004 年度	天竜養護学校、加藤学園暁秀中・高、浜松・江南中、沼津城北高、静岡サレジオ高、城南静岡高・中、浜松・天竜中、韮山中、磐田東中・高、富士宮・大富士小、大井川東小、掛川・日坂小
2005 年度	沼津城北高、静岡サレジオ高、城南静岡高・中、浜松・天竜中、韮山中、磐田東中・高、富士宮・大富士小、大井川東小、掛川・日坂小、湖西高、沼津高中等部、岡部中、浜松・芳川北小
2006 年度	湖西高、沼津高中等部、岡部中、浜松・芳川北小、清水西高、日大三島高・中、東海大付属翔洋高、西部養護学校、磐田・一中、浜松日体中・高、静岡・長田北小、浜松・竜禅寺小、牧之原小
2007 年度	清水西高、日大三島高・中、東海大付属翔洋高、西部養護学校、磐田・一中、浜松日体中・高、静岡・長田北小、浜松・竜禅寺小、牧之原小、不二聖心女子学院、沼津・静浦中、静岡・安東小、浜松・豊岡小、御前崎・一小
2008 年度	東海大付属翔洋高、不二聖心女子学院、沼津・静浦中、静岡・安東小、浜松・豊岡小、御前崎・一小、大井川高、浜松・雄踏中、磐田・豊田南中、御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、静岡・清水小河内小、三島・徳倉小、清水町立南小
2009 年度	浜松・豊岡小、御前崎・一小、大井川高、浜松・雄踏中、磐田・豊田南中、御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、静岡・清水小河内小、三島・徳倉小、清水町立南小、川根高、浜松江之島高、富士・吉原三中、浜松学芸中・高、静岡・大里西小
2010 年度	御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、川根高、浜松江之島高、富士・吉原三中、浜松学芸中・高、静岡・大里西小、常葉学園中・高、下田東中、島田・金谷中、袋井中、静岡・東源台小、浜松・与進小、東伊豆・稲取小
2011 年度	浜松江之島高、浜松学芸中・高、常葉学園中・高、下田東中、島田・金谷中、袋井中、静岡・東源台小、浜松・与進小、東伊豆・稲取小、島田高、島田樟誠高、静岡・清水五中、浜松・北部中、御殿場・南中、磐田・神明中
2012 年度	常葉学園中・高、島田・金谷中、磐田・神明中、静岡・東源台小、浜松・有玉小、島田高、島田樟誠高、静岡・清水五中、浜松・北部中、御殿場・南中、富士宮東高、掛川工業高、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、静岡・城北小、沼津・原小、静岡サレジオ小

2013 年度	富士宮東高、掛川工業高、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、静岡・城北小、沼津・原小、静岡サレジオ小、金谷高、浜松城北工業高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中、島田高、常葉学園中・高、島田・金谷中、静岡・東源台小、浜松・有玉小
2014 年度	金谷高、浜松城北工業高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中、裾野高、駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、静岡・清水三保第一小、浜松・平山小、富士・田子浦小、島田・川根小、浜松・三ヶ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、浜松・有玉小
2015 年度	裾野高、駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、静岡・清水三保第一小、浜松・平山小、富士・田子浦小、島田・川根小、東海大付属小、金谷高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中
2016 年度	駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、富士・田子浦小、東海大静岡翔洋小、三島南高、静岡聖光学院中・高、浜松・可美中、裾野・富岡中、静岡・井宮小、富士宮・上井出小、森小
2017 年度	東海大付属翔洋小、三島南高、静岡聖光学院中・高、浜松・可美中、裾野・富岡中、静岡・井宮小、富士宮・上井出小、森小、遠江総合高、静岡・観山中、本川根中、富士宮・西富士中、浜松・西都台小、静岡聴覚特別支援学校
2018 年度	三島南高、静岡聖光学院中・高、富士宮・上井出小、静岡・井宮小、遠江総合高、富士宮・西富士中、静岡・観山中、本川根中、浜松・西都台小、静岡聴覚特別支援学校、清水西高、菊川西中、西伊豆・田子小、静岡・清水飯田小
2019 年度	富士宮・西富士中、本川根中、静岡聴覚特別支援学校、清水西高、菊川西中、西伊豆・田子小、静岡・清水飯田小、浜松西高、常葉大附属橘高、小山中、伊豆の国・韮山南小、吉田・自彊小、湖西・白須賀小、浜松・城北小
2020 年度	西伊豆・田子小、伊豆の国・韮山南小、静岡・清水飯田小、吉田・自彊小、浜松・城北小、湖西・白須賀小、三島・南中、小山中、静岡・大河内小中、掛川・桜が丘中、清水西高、常葉大学附属橘高、浜松西高、清水特別支援学校
2021 年度	浜松・城北小、小山中、三島・南中、静岡・大河内小中、掛川・桜が丘中、清水特別支援学校、河津・南小、静岡・中島小、牧之原・萩間小、浜松・上島小、静岡大成中・高、浜松学芸中・高、御殿場南高、藤枝東高
2022 年度	河津・南小、静岡・中島小、牧之原・萩間小、浜松・上島小、静岡大成中・高、浜松学芸中・高、御殿場南高、藤枝東高、伊豆・土肥小中、富士見中、静岡・清水飯田中、藤枝・広幡中、浜松・春野中、静岡北特別支援学校南の丘分校
2023 年度	伊豆・土肥小中、富士見中、静岡・清水飯田中、藤枝・広幡中、浜松・春野中、静岡北特別支援学校南の丘分校、熱海・泉小、静岡・由比小、袋井・南小、浜松・初生小、静岡サレジオ中、浜松開誠館中・高、磐田北高、浜名高
2024 年度	熱海・泉小、静岡・由比小、袋井・南小、浜松・初生小、静岡サレジオ小・中、浜松開誠館中・高、磐田北高、浜名高、東伊豆・熱川中、静岡・清水第六中、御前崎中、浜松浜北北部中、桐陽高、沼津視覚特別支援学校

静岡県 N I E 推進協議会

〒422-8033

静岡市駿河区登呂3丁目1番1号

(静岡新聞社内)

TEL 054-284-9152

FAX 054-284-9362

E-mail s-nie@shizushin.com